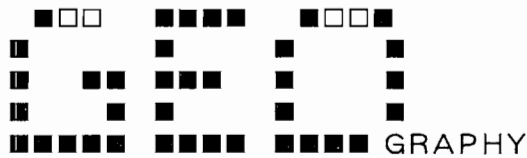


地理学教室のしおり

国土舘大学地理学教室 1999, 2000





《国土館大学文学部地理学教室》
 Department of Geography
 Kokushikan University
 4-28-1 Setagaya, Setagaya-ku
 Tokyo 154-8515 JAPAN
 URL :http://kaede-geo.kokushikan.ac.jp

も く じ

地理学教室とは …… 2	研究用器材 岩石標本
教室の雰囲気 どのような学生を育てるか 地理学教室のスタッフ 地理学教室の沿革	PCの利用と講習 …… 27
大学生生活の心得 …… 6	PCの購入 地理学教室におけるPCの利用
後の祭りにならないために	地理学関係の図書・資料 …… 28
履修の仕方 …… 7	国土館大学中央図書館 地理資料室 地形図 空中写真・LANDSATデータ・数値地図 データ
地理学専攻の専門科目 卒業単位 進級条件 先修条件 教職関連 地誌 情報解析の諸科目 1,2年での履修が望ましい基礎科目 地理学演習(ゼミ) 地理実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	過去の卒業論文 地理関連図書の所在 地理関連図書の検索 地理学関連の専門雑誌・辞書・事典
卒業論文と公開面接試験 …… 12	地理学教室の出版物と案内 …… 34
教員から一言 自己紹介 …… 12	国土館大学地理学報告 ニュースレター Newsletter パンフレット「地理学教室案のご案内」 地理学教室のしおり 卒論の手引
エラスムス計画 長島 弘道 はたせぬ夢 野口 泰生 経歴とゼミについて 瀬戸 玲子 アバウトでいこう 長谷川 均 研究テーマとゼミについて 内田 順文 私の関心事とゼミについて 岡島 建 「研究は面白い」かも? 磯谷 達宏	国土館大学地理学会 …… 35
学生から一言 ゼミ紹介 …… 20	国土館大学地理学報告 講演 巡検 研究発表
長島ゼミについて 鈴木 大典 野口ゼミのハナシ 佐藤 久美子 瀬戸ゼミ紹介 麻生直人 ・稲野辺裕人	資格・就職 …… 39
私から見た長谷川先生 坂下 智美 内田ゼミのこと 鈴木 麻子 岡島ゼミについて 田上 雅伸 磯谷ゼミの紹介 寺町 祥子	資格について 就職について
教室の設備・器材 …… 26	就職、進学へのアドバイス …… 41
鶴川キャンパス 世田谷キャンパス	社会科教員をめざす人へ 釜堀 昌弘 自然科学で考古学の謎に挑む 高橋 敦 地図屋さんのお仕事について 柴田 剛 良い出会いと元気な好奇心 斉藤 出 「知りたいこと」の探求 佐々木 明彦 はたらくおにいさん 杉下 創史
付録 …… 50	
96~98年度の卒業論文 ……	
地理学教室研究用備品リスト ……	

<地理学教室とは>

国土館大学では現在文学部・法学部・政経学部が「2つのキャンパス」制度を採用しており、1,2年生は鶴川キャンパスで、3,4年生は世田谷キャンパスで授業を受けています。

皆さんの所属する地理学専攻、いわゆる地理学教室はその活動の中心が世田谷キャンパスにあって、教員研究室や専攻図書室、教育・研究器材など、多くの設備が世田谷にあります。

そこで、これからたびたび足を運ぶであろう、そして2年後には来るであろう世田谷キャンパスの地理学教室についてまず紹介しておきましょう。

<教室の雰囲気>

国土館大学世田谷キャンパスは世田谷区役所に隣接し、緑の多い閑静な区の一画にあります。十号館正面玄関を入ると、まず目に飛び込んでくるのが、ガラス張りの近代的なオフィス空間と、二台の大型ディスプレイから映し出されるひまわりやNOAAの衛星画像です。部屋の中では様々な学生グループが思い思いの作業をしています。ワークステーションで画像解析をする人、刻々と打ち出される天気図や衛星画像を見ながら先生と議論する人、ホームページで就職情報を集める人、また地形図を広げて野外調査の打ち合わせをしたり、透写台で図化の宿題をしている一群もいます。

ここは文学部史学地理学科地理学専攻、いわゆる地理学教室の表玄関「地理情報処理室」です。この丸見えのガラス張り空間を称して金魚鉢と言ったある文学部教員がいましたが、見られて恥ずかしくない仕事ぶり・勉強ぶりという動機付けと宣伝効果が、当初から改造計画には仕組まれていました。ここは地理学専攻の学生と教員が、また学生同士が、互いに語り合えるコミュニケーションの場、そ

して研究成果を生み出す仕事場です。

ドアを開けて中に入ると、地理学教室の熱気が直接伝わってきます。部屋の中には、パソコンやワークステーション、その他の情報機器が所狭しと並び、教員・学生に使われています。最近、地理学教室の扱う情報量は爆発的に増加し、情報を処理する機器も大容量化・高速化・小型化しました。今やすべての研究室と事務室がLANで結ばれ、世界とリアルタイムでつながっています。

このような教育・研究環境は多かれ少なかれこの大学でも見られますが、特に地理学という学問が、日本中の、いや世界中のデータを相手に、空間的広がりをテーマとする学問であるために、私たちはこのような環境作りにとりわけ努力してきました。急速に広がりを見せている「地理情報システム(GIS)」への対応などはその好例と言えます。

注1) 日本の大学では学科や専攻を「～教室」と言うことが多く、皆さんの所属する地理学専攻も、日常会話では地理学教室と言うことがよくあります。

注2) 「2つのキャンパス」制度によって、学生生活に様々な制約があります。その代表的なものは、2年から3年に(鶴川から世田谷に)移るために必要な履修単位です。

<どのような学生を育てるか>

少し窮屈な、しかし大事な話を先にしましょう。私たちは、地理学教室の教育目標を、「学生に地理的素養を身につけさせる」と言った程度のゆるやかなものに置いています。それより先の具体的目標については個々の学生が四年間の学習を通して自ら決められるよう、教室では斬新かつ充実したカリキュラムを準備して対応しています。

では『地理的素養』とは何か。私たちが生活の基礎を置いている自然環境や人文環境には、『地理的空間』として捉え

られる広がりがありますが、この広がりを認識できる能力をここでは地理的素養と言っておきます。

地球表面に広がる様々な現象には、均一性・規則性・方向性といった広がりの特徴がありますが、その一方で、特異性・例外性・不連続といった場面も登場します。現象の分布はどこまでも均質・均等ではありえません。そこに広がり限界、すなわち地域性、言い替えれば地理的空間という問題が出てきます。この空間は簡単に見分けられるものもあれば、地理的訓練を積んでやっと見えてくるものまで様々です。また、空間的広がりには必ず原因があり、ものごとのプロセスや「なぜ、どうして」という点についても学習しなければなりません。

この地理的空間を発見・再発見し、その醍醐味を味わえるところ、それが「地理学」を看板に掲げた大学の地理学科や地理学専攻、すなわち地理学教室なのです。国土館大学地理学専攻もそのような体験を可能にする教室の一つです。

＜地理学教室のスタッフ＞

現在、地理学教室には7名の専任教員と、10数名の兼任教員・非常勤講師がおり、定員60名（在籍者数約280名）の地理学専攻学生を指導しています。

以下に、各専任教員の専門分野を教員自身の言葉で簡単に紹介します（カッコ内は出身大学、その後に研究室の場所を示す）。

長島 弘道（学芸大、明治大）

世田谷10号館4F

都市化とそれに伴う農業・農村の変化について研究しています。最近では農地の管理、地力維持、ハンガリーの農業・農村にも関心を持っています。「資源管理論」では、イギリスにおける農村資源の管理に関する考え方の推移、日本および



欧米の水資源問題、持続可能な開発を取り上げます。「地域計画論」は、日本における都市計画・地域計画の発展、産業革命以後のヨーロッパの都市政策・計画の展開と近年の再開発問題、今日の日本の農村計画を講義の柱としています。

瀬戸 玲子（お茶の水女子大）

世田谷10号館2F

人口分布図作成と分布の地域的特性、経年変化の研究で、産業大分類別人口構成比、通勤流出・流入を取り上げてきました。また地形と土地利用の関係、土地利用の変化の研究では、丘陵地の大規模住宅開発、低湿地の工場立地、火山麓・扇状地・台地の用水路開削など扱っています。「地図学」「地図製作法」の授業でもこれらの問題を含めており、「測量学」では地形図作成のための測量方法の講義のほか、レベル、セオドライト、光波測距儀を使った実習を行っています。



野口 泰生（上智大、法政大、ハワイ大）
世田谷10号館2F
気候学全般に興味がありますが、現在



は蓄積された大量の気象データを処理して、これまで指摘されてきた気候学的「事実」を再確認することに関心があります。

現在、気温の永年変化に与える局地的な都市の影響や大規模な気流・海流の影響について調査しています。また趣味の域ですが、谷の斜面のような小地域における植生分布にも興味を持っています。授業では自然地理学の概論、環境問題、気候学の諸問題を講義し、北アメリカの地誌も担当しています。

長谷川 均（法政大）

世田谷10号館2F
夏は学生と南の海で合宿を続けて10数年、この時だけは20代の気分に戻ります。



「若者や新参者は、開拓しつくされた領域でわずかに残った落ち穂を拾うより、まったく新しい分野でルールを見つけたり作ったりしながら、大きな収穫を求め

るほうがずっとおもしろい」とは、ある生理学者のことば。新しもの好きの私としては、定年まで「新参者」でがんばるつもりです。「地形学」、「リモートセンシング」などが担当科目で、研究分野はサンゴ礁地形やサンゴ礁の環境保全です。

内田 順文（名古屋大）

世田谷10号館4F
地理的イメージや人文主義地理学を専門分野としています。地理的イメージに関して、主として認知地理学と人文主義地理学の両面から研究しており、また地理的イメージと深い関わりを持つ風景、文化、観光などにも関心があります。「都市地理学」と「計量地理学」では、論理実証主義の立場から空間的現象について講義し、「日本地誌」と「外国地誌（ヨーロッパ）」では、地誌を芸術的記述として捉え、主として人文主義的な視点から地域を理解する方法について講義しています。



岡島 建（名古屋大）

鶴川研究棟3F

近代日本の都市などで、地域の発達過程の中に見られる水上輸送の役割につい



て研究しています。授業では、「歴史地理学」を担当し、身近な世田谷地域の歴史地理や日本の歴史地理学概論を講義しています。専門科目の「地理学演習」、「地理実習」や「卒業論文」の指導のほか、地理学関係の教養教育科目や留学生を対象とする「日本事情」も担当しています。

磯谷 達宏（都立大、農工大）

鶴川研究棟3F

植生の地域的な構造とその成因について、大小さまざまな空間スケールから動的な視点も含めて研究しています。これまでは日本の照葉樹林帯をおもな対象としてきました。専攻での授業は「生物地理学」を担当し、植生の研究法、地域構造、動態、成因などについて講義するほか、できる限り野外実習の機会を設けています。また、環境問題に対する関心の高まりが著しい今日、動物を含めた自然保護や緑地計画についても論じていきます。



専任教員と専門分野

教授	長島弘道	都市政策との関連から見た都市辺地域の農業・農村問題
教授	瀬戸玲子	地図学、測量学、土地利用、土地条件
教授	野口泰生	自然地理学、気候学、植物地理学
助教授	長谷川均	サンゴ礁地域の地理学、地形学、リモートセンシング、GIS
助教授	内田順文	イメージ・景観地理学、都市地理学
助教授	岡島 建	人文地理学、交通、歴史地理学
講師	磯谷達宏	生物地理学、生態学、自然地理学



<地理学教室の沿革>

簡単に地理学教室の歴史について触れておきましょう。今から30数年前の1966年4月、文学部は現在の構成よりも1専攻（初等教育）少ない3学科7専攻で開設されました。

地理学専攻は、国史学・東洋史学の各専攻と共に史学地理学科を構成する3専攻の一つです。歴史学が物事を時間軸で捉えるのに対し、地理学は自然科学や社会科学のなかで空間認識の分野を担当し、常に歴史学と対峙する学問として位置づけられてきました。別の言い方をすれば、地理学と歴史学は車の両輪の関係にあると言えます。地理学専攻が史学地理学科に所属する所以です。

文学部開設当時の地理学専攻カリキュラムや教員構成をみると、地理学の2本柱である系統地理学と地誌の分野、また自然地理学と人文地理学の諸科目が当初からバランスよく配置され、今日のカリキュラムや教員構成の基礎がすでにできあがっていました。

創設当時の教員には、内田寛一（人文地理）、富田芳郎（地形・地質）、山口俊策（生物地理）、福井英一郎（気候）、野村正七（地図）などの先生方をはじめ、当時の日本における地理学会の大御所が名を連ねていました。これまでに地理学専攻に関わりのあったすべての教員と担当科目の詳細は、「国士舘大学文学部創設三十年史」に詳しく記してありますので、参照してください。

大学生生活の心得

<後の祭りにならないために>

皆さんは大学に入ってまずはほっとしていることと思います。とにかく、これまでがむしゃらに勉強してきた（させられてきた）わけですから、極度の緊張の

後に来る弛緩の心地よさを味わう権利は認めざるを得ません。

ところで、どんなものにも「何々とはこういうもの」という既成の一般認識（時には皮肉混じりの諦観）がありますが、日本の社会で大学はどのように見られているのでしょうか。

大学は真理探求の場、学問研究の場と常識的には考えられている一方で、実は、朝寝坊ができ、バイトに週の半分は費やせ、出席はそこそこでも単位が取れ、休講も多く、一生で最も気楽な時間を過ごせる場所とも思われているのではないのでしょうか。「とにかく入ってしまえばこっちのもの」という一方的な認識を持って入ってくる学生が毎年少なからずいるのです。

実は、このような認識のズレが学年末に不幸な結果として現れ、大学4年間をストレートで卒業できない学生の割合は毎年かなりの数に上っています。

ではどうすべきか。答は簡単です。アルバイトに費やす時間を図書館で使えとすることです。アルバイトも社会勉強だという主張は自己矛盾です。なぜなら社会勉強をするために大学に入ったのでは無いからです。経済的にアルバイトの必要性に迫られている学生もいるでしょう。その場合、それだけの犠牲を払ってでも、大学進学を選んだのだという自覚を忘れるべきではありません。

単純計算をしてみます。皆さんが平均週4日通学し、年間25週授業があるとし、（だいたいそんなものです）。支払う学納金を100万円とすれば、1日当たり大学に1万円払っていることになり、1日授業をさぼってアルバイトをすることが、いかにばかげていることが分かるでしょう。アルバイトで1日1万円稼ぎ出すのは難しいでしょう。自動車教習所にお金だけ払って、教習所に通わずにほかでアルバイトをしているのと同

じです。

また、「授業料を払ったのだから卒業単位をよこせ」というわけには来ません。単位認定には学生側に一定の基準・水準が要求されます。それぞれの授業で何が学生に対して要求されているかは、授業の初めに各教員から説明やシラバスの配布があると思います。「授業登録」とは1年間の授業計画と評価基準に納得して学生が教員と交わす契約のようなものです。度重なる授業欠席、課題・レポートの未提出、基準に満たない成績など学生側の契約不履行は不合格につながります。再試験は学生を不公平に扱うことになりまますので、文学部では特別の場合を除き認めていません。

授業出席は当然のことですから、出席すれば点がもらえるという考えも止めてください。本来、出席点などという考えは不当です。また元々、大学は出席を採るような場ではありませんから、出席を採らない授業があったからと甘く見ないでください。予備校や自動車教習所で出席を採ったら、その方がかえっておかしいのです。

とにかく、温情や情状に基づく行為は大学教育をゆがめ、社会が大学に期待している姿とも異なると考えます。したがって、「大学とはこのようなもの」という皆さんの認識がもし違っていたら、ま

ずここで修正して今後の大学4年間をぜひ有意義に過ごして欲しいと思います。

履修の仕方

<地理学専攻の専門科目>

次の表は地理学専攻が提供する専門科目を学年配当別に示したものです。表からも分かりますが、系統地理学（人文地理学、自然地理学の各分野）、地誌、調査法、応用分野の科目が豊富に組み立てられており、必修・選択必修・選択科目を合わせて168単位分あります。高校時代の地理1科目とは随分違うでしょう。

科目の基本単位は、通年の講義科目が4単位、実習科目が2単位で、4単位以外の科目については、科目名の後に単位数を②③...のように示してあります。アンダーラインの科目は必ず履修しなければならない専門必修科目を示します。

学年単位制ですから、在籍年次よりも高学年に配当された科目を履修することはできませんが、在籍年次よりも低年次に配当された科目は履修することができます。なお、考古学*は1、2年同時開設科目、文化史概説*、歴史民俗学*は3、4年同時開設科目です。



地理学専攻の専門科目 学年別配当表
(1998年度入学生以降に適用)

	(人文地理)	(自然地理)	(関連領域)	(地誌)	(情報解析)	(実習・演習・卒論)
1年	人文地理概説	自然地理概説	国史概説 東洋史概説 考古学*	日本地誌 1 首都圏地誌 1	地図学 地理調査法	地理実習Ⅰ②
2年		地形学	西洋史概説	外国地誌(アジア) 3	空中写真判読② 地理データ分析入門②	地理実習Ⅱ②
	歴史地理学	気候学	民俗学研究	外国地誌(ヨーロッパ) 3	統計情報学	地理実習Ⅲ②
3年	経済地理学 都市地理学	生物地理学 第四紀学	資源管理論 文化史概説* 歴史民俗学*	外国地誌(7州) 3 外国地誌(発展途上地域) 3	文献研究 計量地理学 測量学 地図製作法 リモートセンシング	地理学演習Ⅰ②
4年			文化人類学研究 地域計画論 環境アセスメント	外国地誌(環太平洋地域) 3	地理情報システム	測量学実習② 地理学演習Ⅱ② 卒業論文③

<卒業単位>

卒業に必要な単位数は124単位で、その内訳は次の通りです。

総合教育・保体・外国語(28単位) + 専門教育

(88単位) + 自由選択(8単位) = {総合教育

(18単位) + 保体(2単位) + 外国語(8単位)}

+ {専門必修(34単位) + 専門選択必修(16単

位) + 専門選択(38単位)} + 自由選択(8単位)

<進級条件>

文学部では各学年で進級条件を定めています。特に2年から3年に進級する際の条件は「最低60単位履修済みであること」と厳しく定められています。また、たとえ60単位以上履修していても、必修科目を3科目以上落とすと3年に進級できません。これは、無理して3年に進級し

たとしても、鶴川へ取りに通う負担が大きすぎるという点を配慮した結果です。

しかし、わずか数科目不足したために2年次に留め置かれても、留年期間中に3年次以降の科目を履修できませんから、暇をもてあそぶ結果となり、結局は退学につながります。

1、2年次の専門科目はすべて履修しておくことが望ましいと言えます(合計56単位)が、各年次に履修できる単位の上限は、教職などの資格科目も含めて50単位です。もう一度、文学部便覧の熟読を勧めます。

<先修条件>

科目によっては履修登録の条件として、現在履修中か前もって履修済みの科目を指定しているものがあります。学問には、学ぶ順番があるということですが、特に自然科学系の科目に言えます。

①測量学実習の履修には、測量学を履修済みであること。

②地理学演習Ⅱの履修には、地理学演習

I を履修済みであること。

③卒業論文と地理学演習Ⅱは同時履修のこと（卒業論文を落とすと、地理学演習Ⅱも再履修となる）。

④歴史地理学、経済地理学、都市地理学の履修には、人文地理概説を履修中か履修済みであること。

⑤気候学、生物地理学の履修には、自然地理概説を履修中か履修済みであること。

⑥第四紀学の履修には、自然地理概説および地形学を履修中か履修済みであること。

⑦リモートセンシング（3年次）と地理情報システムの履修には、総合教育科目の情報処理1（2年次）、情報処理2（2年次）を履修中か履修済みであることが望ましい。

<教職関連>

教職を取る学生は、便覧の科目リストに記載された「ハードル」科目をパスしていることが、4年次の教育実習登録の前提条件です。また、教職には他に、教職科目など様々な履修上の条件がありますので、便覧の必要箇所を熟読してください。また、オリエンテーション時の説明をよく聞いて理解しておいてください。

<地誌>

日本地誌・首都圏地誌はどちらか1科目を選択必修、外国地誌は5科目の中から3科目を選択必修です。しかし、4年次になってあわてることのないように、1,2年次の地誌はすべて履修しておくことを勧めます。世田谷から鶴川へ取り残しの科目を取りに通うには多くの時間的犠牲を払います。

<情報解析の諸科目>

どのような学問もそうですが、何かを主張するためには、裏付けとなる資料（テ

ータ）が必要です。そのためには、資料を集め、分析するための調査法が確立していなければなりません。

地理学にも様々な地理情報を収集して分析する方法があり、少なくとも卒論を書き始める頃までには、それらを学んでおく必要があります。地図の読み方も、アンケート調査の仕方も知らずに、地理の調査はできませんし、統計分析の方法も知らずに、データを処理することはできません。

地理学教室では、地図学、地理調査法、地理データ分析入門、空中写真判読、統計情報学、計量地理学、文献研究、測量学、地図製作法、リモートセンシング、測量学実習、地理情報システムなど、様々な調査法の科目を準備しています。

なお、地理調査法（4単位）の内容は、前期が人文地理、後期が自然地理の調査法で、担当教員が交代になります。

<1, 2年の履修が望ましい基礎科目>

地理学専攻の学生は、1,2年次開講の地理専門科目はすべて履修した上で、世田谷キャンパスに移動することが望ましいことは勿論ですが、それだけでなく、専門科目の基礎となる総合教育科目の中でも、生物学、地学、日本史、地理学、情報科学、情報処理1、情報処理2、統計学、経済学、などの科目を1,2年のうちに履修しておくことが望ましいと言えます。ただし、これは、地理学のどの分野に興味があるかとか、卒論でどのようなテーマを選ぶかによっても違ってきます。

<地理学演習（ゼミ）>

地理学演習Ⅰ、Ⅱの内容はゼミ形式の卒論研究です。この授業で3年次から各教員別に卒論指導を受けます。原則として、4年次に指導教員を替わることはできませんので、2年次の終わりまでに、自分がどのようなテーマで卒論を書きた

いのか、あるいは少なくとも、自分が地理学のどの分野に興味を持っているのかをはっきりさせておく必要があります。各教員の自己紹介と学生のゼミ紹介をこの冊子に載せておきましたので参照してください。

なお、2月中旬に開かれる公開卒論面接試験は、どの教員がどのような分野のテーマを指導しているか、また卒論とはどのように書けばいいのかを知るよい機会です。

重要なことですが、3年次に地理学演習Ⅰが不合格になると、4年次に地理学演習Ⅱを履修できません(地理学演習Ⅰ、Ⅱを同時に履修することはできません)。地理学演習Ⅱを履修していないと卒論が書けませんから、3年次に地理学演習Ⅰを落とすと、卒業が自動的に一年延びる(留年となる)こととなります。くれぐれも注意してください。

地理学研究の基本は歩いて観察することにあります。これを「地理巡検、Excursion」と呼びます。野外で観察・

調査するためには、様々なテクニックを必要としますが、地理の学生は、1～3年次までの間に、3回の地理実習(巡検)を履修します。

地理実習Ⅰは1年生全員と全教員が参加して1泊2日で行われます。毎年5月に関東地方の中で実施されており、学生同士や教員と学生が知り合えるよい機会となっています。

地理実習Ⅱは2年生が各教員ごとに別れ、関東甲信越のそれぞれの目的地で別々の調査テーマで実施されます。やはり1泊2日で、実施時期は9月末で、希望先は早い者順に決まります。

地理実習Ⅲは地理学演習(ゼミ)単位で実施され、卒論指導と密接な関係が出てきます。実施期間は10月中～下旬に3泊4日で、目的地も日本全国に広がります。実習の成果は12月の国土館地理学会でゼミの代表が発表することになっています。

最近の地理実習先を下に示します。

<地理実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ>

<1年>

1993	埼玉県寄居町	集落、土地利用、地形調査
1994	埼玉県寄居町	町並みと土地利用調査
1995	埼玉県寄居町	空中写真による土地利用と地形調査
1996	飯能・秩父周辺	農村地域の変容・市街地の土地利用形態
1997	東京都渋谷区	渋谷駅前の業種別土地利用の変遷
1998	横浜	都心商店街の現状と動向：店舗調査

<2年>

1993	山梨県富士吉田市	全員で景観調査、気温観測
1994	東京湾岸：臨海部の開発(長島)	
	甲府盆地：土地利用調査(瀬戸)	
	霧ヶ峰高原：亜高山帯の自然環境(野口・長谷川)	
	伊豆：ツーリズムと社会調査(内田)	
1995	群馬県新治村：中山間地域の現状と課題(長島)	
	山梨県韮崎市・白根町：扇状地地形、用水路と土地利用(瀬戸)	
	三浦半島南端部：城ヶ島の地形地質、三浦市の気温観測(野口・長谷川)	

- 熱海市・伊豆高原：社会調査の計画・実施・分析（内田）
- 1996 群馬県川場村：村づくり（長島）
 群馬県薮塚本町：灌漑水路と土地利用（瀬戸）
 長野県霧ヶ峰高原：亜高山帯の自然環境（野口・長谷川）
 静岡県修善寺町：各種社会調査（内田）
 群馬県甘楽町：上州の歴史地理（岡島）
- 1997 群馬県昭和村・川場村：中山間地域の村づくり（長島）
 群馬県薮塚本町：大間々扇状地の灌漑用水路と農業土地利用（瀬戸）
 霧ヶ峰高原：本州亜高山帯の自然環境（野口・長谷川）
 静岡県修善寺町：社会調査（内田）
 富岡市・甘楽町：上州の歴史地理（岡島）
- 1998 群馬県新田町：環境保全型農業（長島）
 長野県伊那市：稲谷における地形と土地利用（市川）
 霧ヶ峰高原：本州亜高山帯の自然環境（野口・長谷川）
 栃木市・日光市・黒羽町：小京都の風景（内田）
 小田原市・箱根町：近世の都市と交通（岡島）
 蓼科高原・縞枯山：山地帯・亜高山帯の植生（磯谷）

<3年>

- 1993 神戸市および周辺：各自がテーマを決めて調査（長島）
 宇都宮市および那須扇状地：都市、開発、環境（瀬戸）
 岐阜県高山市：山間盆地と都市気温（野口）
 福島県会津田島町：地形、水質、土壌調査（長谷川）
 京都市および周辺：各自がテーマを決めて調査（内田）
- 1994 新潟市および周辺：各自がテーマを決めて調査（長島）
 秩父市：盆地地形と都市気温（野口）
 長野市：土地利用・都市・開発・環境（瀬戸）
 福島県会津田島：地形、水質、リモセンデータ収集（長谷川）
 佐渡：各自がテーマを決めて調査（内田）
- 1995 仙台市と周辺：各自がテーマを決め調査（長島）
 小名浜：気温・海面水温・漁獲高（野口）
 前橋市：各自がテーマを決め調査（瀬戸）
 伊那・木曾駒ヶ岳：河岸段丘・活断層・氷河地形、リモセンデータ収集（長谷川）
 札幌：各自がテーマを決め調査（内田）
- 1996 甲府市と周辺：各自がテーマを決め調査（長島）
 福島市と周辺：東北の異常気象と都市気候（野口）
 福島市と周辺：各自がテーマを決め調査（瀬戸）
 神戸市・六甲山地周辺：活断層、水質調査、リモセンデータ収集（長谷川）
 大阪市：各自がテーマを決め調査（内田）
- 1997 大阪市：街づくり、近郊農業など（長島）
 仙台市：再開発、都市公園など（瀬戸）
 銚子市：気候環境と海況（野口）

- 北海道東部：道東の地形（長谷川）
 那覇市：食文化、風水信仰など（内田）
 名古屋市：都市と交通（岡島）
 1998 会津若松市：商店街立地・都市景観保存・地場産業・農業経営（長島）
 水戸市・旭村：海と気候環境・都市の気候環境（野口）
 南房総・千倉：海岸段丘・海岸植生・海藻類の分布（長谷川）
 盛岡市：都市の立体的機能分布・観光イメージ（内田）
 新潟市：都市地理・交通地理（岡島）
 伊豆半島：照葉樹林帯からブナ帯の植生（磯谷）

卒業論文と公開面接試験

卒業論文とは、学生がゼミ教員の指導のもとに自らの手で仕上げる研究論文です。小学生の頃、夏休みの自由研究を一生懸命やったことのある人は、研究について少しは感覚がつかめているかも知れません。

法廷でAが犯人であることを誰にでも納得させる（科学的に証明する）ためには、十分な裏付け調査による証拠固めが必要です。卒業論文では、地理学の分野で同じことをやります。

また、論文は当然正しい文章で、論理的に書かれていなければならず、書き方についての細かい注意が地理学教室作成の「卒論の手引き」に示されています。

毎年12月10日15:00が卒論提出締切で、2月中旬には教員・在校生・卒業生などを前にして卒論公開面接試験が3日間連続で開かれます。

この面接試験は、学生が2年かけて作成した卒論を試される時ですから、手抜きをした学生は後輩の前で恥をかき、真面目に仕上げた学生は皆の前で鼻を高くできます。本人の発表、主査・副査の質問で構成される20分は大学4年間を締めくくる緊張の時間です。

下級生はこの発表大会に出席して、卒論とはどのように書かなければならないのか、どう書けば高い評価が得られるの

かを十分理解する必要があります。また、2年生は3年次にどのゼミに所属したらよいかを判断するよい機会です。自分の卒論面接試験の前に一度もこれに出席したことが無かったなどという学生は、まず留年を覚悟する必要があります。

幸い、最近では世田谷の階段教室がいっぱいになるほど下級生の参加が多く、これは無料のコーヒーサービスのためだけではなく、やはり卒論研究への認識が高まったためと思われ、将来が非常に楽しみです。

教員から一言

地理学教室の各先生から新入生の皆さんに自己紹介を兼ねて、大学生活の心構えやゼミについて述べてもらいました。最近の研究や指導した卒論についてもいくつか例を挙げてもらいました。

エラスムス計画

長島 弘道

98年8月、ポルトガルでの学会のあと、農村の景観を見る目的でイングランド北部、スコットランドを訪れました。エディンバラからロンドンへの列車に乗った時、テーブルのついた4人用の座席の向かいの席にギリシャの女性が座りました。彼女はEUの交換留学生制度を利用して、エディンバラにある大学の工学部で電子工学を学んでいるとのことでした。帰国

後、この制度はエラスムス計画といわれ、短期・長期あわせて既に12万人が自国をはなれ、国外で学んでいることを知りました。新しいタイプのヨーロッパ人を育てるシステムということでしょうか。エラスムスという名称は15～16世紀にヨーロッパ各地を股にかけて活躍し、思索を深めたオランダの思想家にちなんで命名されたとのことでした。

日本にはこれと同じ制度はありませんが、最近では多くの大学が海外の大学と提携しています。国土館大学もアメリカ、中国など8校1考古遺産庁と提携しています。外国に身をおくことはそれなりに緊張を伴いますし、自己管理は不可欠です。知的好奇心の領域を拡大するには極めて効果的です。青年時代をどのような形で誰とともに過ごすかということは、その人のアイデンティティの形成に大きく影響するものと思われます。人生80年時代といわれる今日、そうした長いスパンの中で青年期の自分の生き方を探してほしいと願っています。

<最近の研究>

- ・The Organization of Farmland Management Systems in Mountainous Areas in Japan, C.Bryant & C.Marois (Eds.), The Sustainability of Rural Systems, pp.278-289, カナダモントリオール大学、1993.
- ・中山間地域における耕作放棄地の拡大と農地管理、石井素介・長岡顕・原田敏治編著、国土利用の変容と地域社会、pp.166-180, 大明堂、1996.
- ・1989年改革後のハンガリーの農村の変容、歴史と地理、485号、pp.1-10, 1996.
- ・首都圏における堆肥の生産と利用、国土館大学人文学会紀要、31号、pp.1-13, 1998.

<指導した卒論の例>

- ・伝統的町並み保全の現代的意味と方法に関する一考察：川越・旧城下町のケーススタディ
- ・生産緑地法改正後の都市農業の変化：東京都昭島市を事例として
- ・都市農地を残すための一つの手段としての市民農園：東京都練馬区の3種類の農園を事例として
- ・環境保全型農業の取り組みについての考察：群馬県新田郡新田町を事例として

経歴とゼミについて

瀬戸 玲子

私は大学卒業後すぐ、国家公務員試験6級職（今でいえばI種）採用で国土地理院に入り、日本全土を対象とし、空中写真や地形図、国の統計資料を使って地理調査をし、主題図を編集する仕事に長くたずさわってきました。真夏の1～2カ月1人で長期出張し、土地利用図作成したことも何度かあります。大学の研究室と違って、役所の組織では自分の専門とか、自然地理・人文地理の区別は許されず、2～3年ごとに担当する仕事が替わり、これをこなしてゆくことが必要でした。建設大学校や、非常勤講師をしてきた国立・私立の大学、専門学校では地理院での経験を生かした地図学、測量学、地理調査法、環境調査、地形学、アジア地誌、人文地理概説と広い分野にわたって教えてきました。

<ゼミの内容>

卒論のテーマでは、土地利用・水利用計画、開発・防災・環境保全対策などを扱い、地形図や空中写真を持って現地調査をし、あるいは統計を使って主題図をまとめるといった実態的な調査をする学生を歓迎します。このような応用地理学的な調査では自然地理、人文地理の区別

はなく、両方にまたがり、自然と人文のかかわりを考えるということになります。

<最近の研究>

- ・日本における地形分類別土地利用：メッシュデータによる分析、地図、24(4)、1986.
- ・産業大分類別就業者構成比の変化：1965～1985年の関東地方を中心に三角ダイアグラムを利用した地図作成による考察、国土館大学文学部人文学会紀要、25号、1992.
- ・関東地方における昭和40年(1965)～60年(1985)の市区町村別通勤人口分布の変化(1)：主要都市への通勤人口、地図、33(2)、1994.
- ・同上(2)：東京都特別区部への通勤人口、地図、33-1、1995.
- ・関東地方における集団住宅建設の立地条件と経年変化(二見昭宏と共著)、国土館大学地理学報告、No.4、1995.

<指導した卒論の例>

- ・衛星都市、川越市の住宅地における土地利用変化
- ・東京都足立区千住地区における土地利用の混在構造
- ・駅前商業地の開発及び整備状況と地価価格の関係 横浜の第2都心と3つの副都心を例に
- ・人口増加に伴う市街地周辺の土地利用変化について

大学とは

野口 泰生

皆さんがこれまでやってきた受験勉強と大学でこれから始める学問とはかなり違います。受験勉強では、できるだけ多くの知識を詰め込み、問題を素早く解くテクニックを知っていることが大事でしたが、学問は「真理の探究」と言われるように、どこに真実があるかを考えるわ

けですから、ゆっくりでもいいからねちっこく、一つのテーマについて考えられる粘り強さとその粘着力を持続させる強力な好奇心が必要です。

本当は受験勉強など無く、高校時代から真理の探究のおもしろさが少しでも味わえれば、勉強はもう少し楽しかったはずですが、日本の教育制度は大学受験のために大きくゆがめられています。

では受験勉強がまったく役に立たないかと言えば、そうではありません。真理の探究には、学問のルールと専門分野の基礎知識を知っておく必要がありますから、受験勉強中の努力は無駄ではありません。センターだ注意して欲しいのは、大学でやることは受験勉強の延長ではないということです。そして、大学でやる学問の頂点に卒業論文があります。

卒業論文とは、学生が地理学の分野の中で関心のあるテーマについて、一生懸命調査し、新しい発見を指摘し、なぜそうなっているのかを科学的に説明する場です。

言うなれば、刑事さんが犯人らしい人を捕まえて、証拠をいろいろ示して、「どうだ、私の言うことが正しいだろう」と誰にでも納得できる説明をするのと同じことを卒論でやるわけです。

研究を専門的にやっている研究者や大学の教員は、昼も夜も好き好んでこのようなことをやっている人たちです。

<最近の研究>

- ・Vegetation Asymmetry in Hawaii under the Trade Wind Regime. Journal of Vegetation Science, 3, 223-230, 1992.
- ・Hydrometeorological Differences between Opposite Valley Slopes and Vegetation Asymmetry in Hawaii. Journal of Vegetation Science, 3, 231-238, 1992.

- ・日最高・最低気温の永年変化に与える都市化の影響、天気、41, 123-135, 1994.
- ・生活と環境：ジオグラフィックアプローチ（川合元彦・野口 泰生共編著）、技術書院、270pp., 1994.
- ・気象官署所在地都市の温暖化と気温の永年変化における最暖・最寒値、国土館大学文学部人文学会紀要、27号、35-58, 1994.
- ・気温極端年における夏日・真夏日・熱帯夜・冬日・真冬日の分布について：関東甲信越地方とその 周辺地域を中心に、国土館大学地理学報告、No.6,1-25, 1997.

<指導した卒論の例>

- ・濃尾平野周辺地域での暖冬年・寒冬年における冬型気圧配置下の降雪量の特徴
- ・新潟県高田平野における夏季の高温と海風の関係について
- ・埼玉県秩父盆地を中心とする関東平野西部での冬型気圧配置下の地上風系について
- ・埼玉県外秩父山地大霧山斜面における夜間気温の特性とその発生頻度について
- ・千葉県における8月の海陸風について



アバウトでいこう

長谷川 均

ここ十年以上、夏はいつも沖縄の石垣島でいろいろな組織の人たちと調査を続けている。そのなかに、とてもいい加減な某大学の研究者がいて（それは彼のポーズにすぎないのだけれど）、ぼくが連れてゆく学生たちでさえ「あの先生は、まったくうー…」などと言うありさまだ。しかし、ぼくにとっては、この人の存在はとても有り難い。なぜなら、いっけんダラダラした、そのくらいのペースでないと亜熱帯での調査は長続きしないからだ。ガツガツ調査するというのも性に合わないし。

だからというわけではないが、ぼく自身も本土にいる一年の大部分をアバウトに暮らしている。そのせいもあってか、ここ数年はゼミの学生がずいぶん好き勝手なことをやり始めた。人の言うことを聞かないというのはいいことだ。大学にはグダグダ理屈をこねる先生方が大勢いるから、アバウトなヤツがいれば少しは息も抜けるでしょう。でも、学生には「言うべきことはきちんと言う」よ。

ゼミのみんなには、「惚れ込んだテーマで卒論を」をモットーにしてもらっている。想念は具象化するというのが持論だからね。本当は「軟弱者は去れっ」をモットーにしたいんだけど、我が身を振り返ると口に出せない。夜中にCD流してビール飲みながらだから、何を書いているのかわからなくなってきた・・・。じゃまた。

- 最近の私が薦めるこの一冊
音楽を聴く 片岡義男 東京書籍
- 最近の私が惚れたこの一枚
獏詩人・山之口獏をうたう高田渡、大工哲弘など B/C RECORDS
- 最近の私が唄うこの一曲
風のどうなん西泊茂昌もと歌、本土のカラオケ屋には無いのだ

○最近の私の研究成果はこれ

<書籍>

- ・リモートセンシングデータ解析の基礎、古今書院、1998.

<論文>

- ・サンゴ礁干潟の環境変化と保全（共著）、（財）日本自然保護協会、1994,1995.
- ・分光反射測定によるサンゴ礁環境調査への応用、国土館大学人文学会紀要、28号、1995.
- ・文学部地理学専攻学生に対するリモートセンシング教育、国土館大学情報科学センター紀要、17号、1997.
- ・サンゴ礁環境衛星地図の作成、科学研究費研究成果報告書、全39頁、1998.
- ・第二回白保サンゴ礁モニタリング調査報告書（共著）、石垣市、WWFJapan、全19頁、1998.

<指導した卒論の例>

- ・ランドサットTMデータの小地域における土地被分類精度の検討
- ・根室半島豊里におけるアースハンモックの形成環境
- ・衛星データを用いた石垣島轟川流域における赤土流出域の検出
- ・茨城県日立市北部における岩石海岸の地形変化
- ・栃木県足尾山地における牧草地の人工地形の形成状況
- ・群馬県北部山地における森林環境について
- ・変量解析を使った都市河川の付着藻類と水質の関係
- ・中華人民共和国三江平原における湿原植生 状況の変化について：リモートセンシングデータを用いた 状況変化
- ・丹沢山地におけるササ林の退行状況
- ・崩壊地における土石流扇状地の形成過程

研究テーマとゼミについて

内田 順文

おもに何を研究しているか？

一言で言えば「地理的イメージ」に関する研究ということになります。この分野は未だ一般化しているとは言い難いので、人に説明する際にいつも羞ずかしい思いをしてしまうのですが、例えば「銀座」や「金沢」や「スイス」という地名を聞いたときに、何か思い浮かぶものがあると思います。それが地理的イメージです。しかも、それはおそらく「北千住」や「川崎」や「バン格拉デシュ」について思ったときの内容とは違っているのではありませんか？実際、我々は日常生活の中で気付かぬ間に、ある場所に対してある決まったイメージを持つようになっているので、「吉野」は昔も今も桜の名所であり、「田園調布」と名がつけばマンションの値段が上がリ、「西陣」織りといえは有り難がられ、演歌の主人公は「北」へ向かい、山陰の「小京都」に観光客が集まる、などといった色々な現象が起こります。その辺のメカニズムを明らかにしようというのが主な研究テーマなわけで、いわば地理学と心理学と社会学との境界線に位置しているとでもいいでしょうか。しかも近年、地理に関係するあらゆるイメージを扱うという点から、景観・風景、文化、観光などにも研究の興味を広げており、要するに自然・人文、政治・経済・文化・歴史、その他「何でもあり」の研究で、その意味では、各方面への雑多な知識の集まりであるとも言えた古代の地理学へ退行しているのかもしれない。

<ゼミの内容>

ゼミとは、卒業論文の作成に必要な知識と技術を身につけるための演習です。今日のマスプロ化された大学教育の中で、唯一「学問」としての側面を残している

科目だといってもよいでしょう。本を読んだり、人のノートをコピーしたりするような方法では決して知ることのできない内容について教授することになります。そこをふまえた上で、大学生生活の後半を真に有意義に過ごしたいと思う学生、充実感のある卒論を書くつもりで来る学生は来るとよいでしょう。満足のいく論文が書けるよう、3年次から「学問」とは何か、みっちり教えて差し上げます。具体的には、都市地理学・観光地理学・文化地理学といった人文地理学の実証的研究のほか、地理イメージを扱う認知・行動地理学や、場所や景観を扱う人文主義地理学といった新しいタイプの地理学について、主として指導します。

<最近の研究>

- ・都市の「風格」について：場所イメージによる都市の評価の試み、地理学評論、59, 276-290, 1986.
- ・地名・場所・場所イメージ：場所イメージの記号化に関する試論、人文地理、39, 391-405, 1987.
- ・軽井沢における「高級避暑地・別荘地」のイメージの定着について、地理学評論、62, 495-512, 1989.
- ・比喩的認識と場所イメージ、国土館大学文学部人文学 会紀要、26, 96-112, 1993.
- ・推理小説の舞台としての場所：金田一耕助が活躍する作品世界、杉浦芳夫編『文学 人 地域—越境する地理学』古今書院、127-162, 1994.
- ・宮崎駿『風の谷のナウシカ』にみる「自然—人間」観と現代人の地球環境観について、国土館大学地理学報告、No.5, 1-15, 1996.

<指導した卒論の例>

- ・視野から見た東京山手線主要5街区における色彩 と地域性の関係について

- ・三重県における帰属意識からみた地域区分：三重 県は東海か、関西か
- ・東京都における墓石の形態について
- ・「湘南」イメージにみる空間認知とその要因について・文学作品にみる「人間」と「場所」の関係：夏目 漱石と鎌倉を例として
- ・訪日外国人による日本の観光地評価と観光行動について
- ・幕末から明治初期にかけての横浜のイメージの変化：横浜浮世絵を対比にして
- ・秋田県内におけるハタハタ食形態の差異について
- ・高層住宅の立地にともなう都市周辺部の変化について

私の関心事とゼミについて

岡島 建

私は、古道、古い町並、廃線跡、産業遺跡、土木遺産など、かつては大きな意味を持っていたが、今では人の目に触れることの少なくなったものをたどったり、見つけたりするのが好きである。これは私の単なる趣味に過ぎないが、学問的に見れば、歴史地理学的な見方ともいえる。

私が学生時代の地理学実習で、ある宿場町の調査をした際、町の裏手を流れる河川の岸に、町家から降りる石組みの階段、すなわち船着場の跡があるのを見つけ、かつては川舟で荷を運んでいた事実を知った。その後私は、近代日本の河川水運の役割に着目して研究を進めてきた。東京でも、今は高速道路の下でドブ川と化している日本橋川には、ほんの50～60年前まで、多くの船が荷を積んで行き交っていた。

しかし、そんな事実も学問的に実証するのは、なかなか難しい。関連のありそうな文献や資料を探し、丹念に読み込む。そこから新たな資料の所在を知ることもある。それを繰り返し、たとえば河川水

運が活躍していた当時の資料を数多く収集し、それらによって、できる限り客観的にとらえられなければならない。失われた空間現象を明らかにしてくれる資料も失われる可能性は高い。それを掘り起こし、過去の空間を復原するのが、歴史地理学徒の仕事であると思う。

ゼミに関しては、ゼミ生諸君と一緒に勉強していきたいと思う。歴史地理、交通地理、都市地理に関して、地道に歩いて資料を集め、小さなことでもよいから、新しい事実を発見することを目指して欲しい。そのために論文講読によって基礎を固めていく。

<最近の研究>

- ・近代東京における都市内水運について、人文地理、41, 1-23, 1989.
- ・近代都市における水運利用について、歴史地理学、154, 1-17, 1991.
- ・大阪地方における近代都市内水運の発達、交通史研究、33, 28-39, 1994.
- ・近代日本の内陸水運に関する研究の動向と課題、国土館大学人文学会紀要、30号、51-60, 1997.

<指導した卒論の例>

- ・神奈川県相模原市における先端技術産業の役割：
NEC相模原事業場を中心として
- ・中山道本庄宿の構造と繁栄の要因：近世後期を中心として
- ・川崎市多摩区における宅地開発の展開
- ・東京湾アライの効果と課題
- ・新潟都市圏における交通流と周辺地域の変化
- ・千葉都市モルールの利用状況と周辺地域への効果
- ・JR南浦和駅と武蔵浦和駅周辺の地価変動と土地利用変化

「研究は面白い」かも？

磯谷達宏

地理学教室に入った皆さんは、4年次には必ず卒業研究（卒業論文の作成）に取り組むこととなります。研究が好きタイプの人にとっては、専門の勉強は多少の努力が必要なものの基本的には楽しいことですから、自分なりに納得のいくまで興味を追求してってください。1～2年の間は授業のほか、興味をもった本を読んだり野外で視野を広めたりする時間が重要だと思います。欲しい本が見つかった時は、多少の無理をしても買って読みましょう。

一方で、自分は研究にはあまり向いていないかも？と思っている人もいることでしょう。ところが、そのような人ほど、卒業研究は将来にとっての良い経験になるはずで、1～2年のうちは、授業などで幅広く勉強しながら、少しでも興味をもてる分野を探してってください。卒業する頃には研究の面白さを発見できるかもしれません。

多くの隣接分野と密接な関係をもつ地理学は、きわめて間口の広い領域ですから、求めれば必ず自分に向けた研究テーマが見つかるはずで、卒業までにはぜひとも、皆さんが各自で研究の面白さを発見してってください。

<経歴など>

私も学部と修士課程では地理学教室に所属しテーマした。そして、卒論のテーマを決めるまでにはずいぶんと時間がかかりました。「環境問題に関係のある自然地理、それもできるだけ総合的な分野で卒論を書こう」という基本方針は早くから決まっていたのですが、その先がなかなか決まりませんでした。3年生までは、地理の授業や自主ゼミなどで気候学を中心に勉強しテーマした。一方で生態学にも興味があったので、専攻外の生態

学の授業を取ったり、その関係の本を勝手に読んだりしてテーマした。しかし、地理学教室では植生中心のゼミがなかったこともあって、3年生の夏頃には水文気候をやるつもりでいました。ところが、卒論のテーマを具体的に決める段になると、データ解析中心の水文気候よりも、どうしても野外に出かけて調査するようなテーマを選びたくなり、3年生の終わり頃になってからようやく、植生に関するテーマで卒論を書くことに決めた次第です。

こうして私の場合はテーマを選ぶ時期が遅くなってしまったので、その後もいろいろとたいへんでした。なんと7月になってから、自分とほぼ同様のテーマが東京農工大学の植生管理学研究室で既に解明されつつあることがわかったのです。仕方なく環境庁の植生図を見ながらテーマを考え直し、急きょ雑木林の分布に関するテーマに変更しました。このようなわけで、皆さんには自分なりの方向性をもう少し早めに決めていくことをお勧めします。

その後、なんとか修士課程に進学し、それが終わる頃になると植生についてももう少し違った角度からも知りたくなったので、上術の農工大の大学院に進んで照葉樹林の研究を行いました。その後は、生物調査や緑地計画を行う(株)緑生研究所というITアウト会社で契約社員として働いた後、98年までは国際生態学センターという財団で研究員としての仕事をしました。

趣味は、中学生の頃からずっと野外活動と音楽ですが、前者は今では半分仕事になってるので、純粋な趣味といえるのは後者です。巧くはないですがフェンダー系のギターを2本持ち、今でもたまに弾いています。30才を過ぎてから、ある有名バンドのファンクラブに入りました。

<ゼミの内容と方針>

当ゼミでは、生物地理学の中でもおもに植生についてのテーマをとり扱います。また、とくに植生に関連した範囲内で、自然保護や緑地計画に関するテーマも対象とします。さらに、自ら学んでいく決意がとくに強い人なら、動物に関するテーマを追求してもらってもかまいません。

いずれにせよ、野外における生物調査を基本とする内容なので、生物と野外調査が好きな人には向いているゼミといえるでしょう。卒論では相当量のまとまった調査を必要とします。野外調査を行うにはそれなりの訓練が必要なので、3年次には授業時間外にも何回か野外実習の機会を設け、参加してもらいます。

<最近の研究>

- ・南房総地域における常緑および夏緑広葉二次林の分布とその成立要因。東北地理、41、1989.
- ・箱根山函南原生林におけるアカガシ林の動態。日本生態学会誌、41、1991。(奥富 清と共著)
- ・伊豆半島南部の小流域における常緑および夏緑広葉二次林の分布とその成立要因、生態環境研究、1-1、1994.
- ・暖温帯林の地理的構造と動態。生態環境研究、2-1、1995.
- ・常緑広葉二次林と夏緑広葉二次林の分布とその成立要因、ワイルド・ライフ・フォーラム、1-3/4、1995.
- ・丘陵地の土壌・植生。「丘陵地の自然環境：その特性と保全」、松井 健ほか編、古今書院、5-10、1990。(松井 建と共著)

<指導した卒論の例>

1998年度の卒論のテーマは以下のとおりです。

- ・東京都世田谷区の機能別にみた緑地分布

- ・セイトカアワダチソウの繁茂と水質汚染の関係：手賀沼集 水域を例に
- ・静岡市藁科川の木枯の森における植生
- ・三宅島北東斜面における噴火後の植物の侵入
- ・スギ人工林の施行方法の違いが林床植生と土壌に与える影響について
- ・河川における沈水植物の分布と水質汚濁：相模川支流4河川を事例として
- ・伊豆半島達磨山付近におけるササ草原の分布とその成立について
- ・奄美大島におけるマングローブの分布とその環境について

学生から一言 ゼミ紹介

長島ゼミについて

鈴木 大典

指導にあたる長島先生は、農業、農村地理学を主な研究分野にしておられるが、地理の国際会議などにもよく参加され、日本の身近な地理学から、海外の地理、社会問題といった人文地理学全般に精通した方である。そのため、学生の研究テーマは農業、工業、経済、福祉、都市、環境、住宅といったように多分野にわたっている点が長島ゼミの特徴と言えます。ゼミでは研究テーマ、調査方法等の発表と結果報告という形式になっており、一人一人の研究テーマ（分野）が多種多様であるがゆえに、先生、学生同士での議論（質問攻め）も激しく、学問だけでなく精神も鍛え上げられることと思います。長島ゼミでは経済学部や福祉学科でもないのに、経済や福祉を研究テーマにしていいの？と感じるかも知れませんが、学問に境界線などありません。従って自分が感心をもったものなら何でもいいのです。地理を学ぶ学生が研究すれば、経済地理、福祉地理といった具合におのずと地理に結びつくはずであり、地理とい

う学問を通して、経済や商業、福祉、身近な社会問題といったものをみるのも面白いと思います。地理との結びつきがうまくいかず調査にいきずまるようであれば、先生に相談するのが良いでしょう。長島先生曰く。「学生は分からないことを指導者に聞く権利があり、指導者はそれを教える義務がある」とおっしゃられていますし、的確なアドバイスをしていただけます。（自分を含め、すべての学生が何度もアドバイスを受けています）とは言え、すべて先生任せでは絶対に巡検レポートや卒論は書けません。必修科目であるこれらを提出できないということは、卒業もできないということです。研究するのは、あくまで自分本人ですから、一人での孤独で苦しい作業となるのは、覚悟しておいた方が良いでしょう。

しかし、新入生の皆さんは、今焦る必要はまったくありません。1年次の巡検において地理的観察力を養い、2年巡検では2～3人での調査、3年（ゼミ）巡検では調査地域を自分たちで設定し、テーマ設定、調査を一人でする、といった具合に段階的にカリキュラムが組まれているので、学年が上がるにつれ、徐々にレベルアップしていけるようになっており、大丈夫だと思います。

ゼミとは自分の研究テーマに沿って選ぶものであり、2年次終了までには自分が人文地理系にするか自然地理系にするか？またその中でどんなことを研究したいか？頭の中に2つ3つ入れておくことをお勧めします。じっくり考えてみて頑張ってください。

瀬戸ゼミ紹介

麻生直人・稲野辺裕人

瀬戸先生は長らく国土地理院にお勤めになられ、日本全土を対象として、空中写真や地形図、国の統計資料を使い、現地調査や官公庁で資料収集して、主題図

を編集するお仕事等に携われてきました。ゼミでも、地図や空中写真を持って現地調査をしたり、また行政等の統計資料を使って地図にまとめるといったことを行ったりしています。開発・防災・地域計画・土地利用計画等に関連した調査では自然地理、人文地理の区別はなく、両方にまたがり、自然と人文の関わりを考えるとということになります。

我々が、瀬戸先生のゼミを選択した理由は、先生は三年次（現在は一年次）の地図学（必修）、測量学（測量士補資格取得者必修）の授業の中でも優しく、丁寧に教えてくれ、ゼミの中でも同じように指導していただけるのではないかと思います。それで、先生の下で頑張っていくと決めました。

我々瀬戸ゼミの特徴は、先生が人文地理学・自然地理学といった二つの分野を取り扱っているということです。人文地理学では、主に都市構造や土地利用などがあげられ、自然地理では、土地条件や地形分類などがあげられます。

15人のゼミ仲間がどんなテーマで卒論に取り組んだのかは、この冊子の巻末の一覧表を参照してください。これを見れば、多彩な分野にわたった卒論研究がなされていることがわかんと思います。卒論というものは、誰もが悩みそして苦しむ、学生生活最大の壁といえるでしょう。しかし、その壁を打ち破るのは努力と根性、そして早く取りかかろうという気持ちしかないのです。

簡単な説明で終わってしまいましたが、先生のゼミに興味のある人は先輩などのアドバイスを参考に、じっくりと考えてがんばってください。



野口ゼミのハナシ

佐藤 久美子

「野口ゼミ」は「自然地理学系のゼミ」で自然系三大勢力（...といっても3つしかないのですが）の1つを担うゼミであります。ではその自然地理の中でなにを主体にしているのか、といいますが、担当教授の野口先生は気候学が得意ということで気候学を中心にゼミが行われています。

もちろん「ゼミ」ですから、この分野に興味を持った学生が集うのですが、必ずしも気候学だけに興味を持った学生が集まるわけではありません。私と同じ学年の人たちでも水質や大気汚染をテーマに研究している学生もいます。ですから気候学のゼミだからといってそれだけを研究しているわけではないのです。じゃあゼミはどうやって決めればよいのか、ということになります。一番の理想は自分が研究したいテーマが決まっていることです。ハッキリ言ってそんな人は学年中数えるほどしかいません。実際は自分がどんな分野に興味があるのかわからない、興味はあるがどのゼミにいったらよいのかわからない、というのが現状です。そこで3年後、ゼミを決める時期になってあわてないように1、2年生の間にやっておく（方がよい）ことをあげておきましょう。

まず1年生の間は授業をサボらずにしっかり聞いてください。1年生で地理学教室の先生方ほぼ全員の授業を聞くことになります。必ずしも先生方の専門の授業ではありませんが、内容はかなり濃く、参考になることは間違いのないでしょう。

2年もこの流れで変わりませんが、ポイントは地理実習Ⅱです。2年生では自分の希望する先生に分かれて行うので、ここである程度自分の興味を見定めなければなりません。

1年から2年にかけて蓄積させた知識が

らいろいろと絞り込んでみて、自分の興味の傾向を割り出してみてください。そして実習終了後に改めて考えてみてください。実習にいったからその先生のゼミではなくてはならないというわけではありませんし、いってみたら興味がわかなかった、ということもあります。それでも自分じゃよくわからない！という人は先輩や先生を使って情報を集めましょう。あるものは使わないとツツというものです。きっと詳しい話が聞けるはずですよ。これくらいやれば自分の興味がハッキリと見えてくるんじゃないでしょうか。もしよかったら参考にしてみてください。

さて、今までゼミは自分の興味で選べ、と行ってきましたが、それに加えてゼミの中身について。ゼミというと堅そうなイメージがありますがそんなことは、ありません。でもそれなりに、です。いつも和やかにやっています。笑いがこることもありますよ。

野口ゼミでは様々なテーマの論文を全員で読み、先生が補足説明をする、という形で進められます。このほかにも学生が研究の途中経過を発表することもあります。手を抜いたりするとキビシー愛の癖が飛んでくることもあるのです。シビアな世界であります。でも先生は猛獣使いのようにいつも好みをふるっているわけでもありません。調査方法や論文のことで相談に行けば時間を割いて一緒に考えてくださり、資料の提供をお願いすれば快く受けて下さって、こちらの期待以上の結果が生まれることもあります。頼りになる先生です、ホントに。

でもどんなに頼りになる先生がいても、ゼミで研究をして卒論を書くのは自分自身。まだ先のこと、と思わずにちょっとだけ焦って周囲をみながら毎日を過ごしてみてください。きっとゼミを決めるのに役立ついろんなおもしろくて興味深いことがたくさん見つかりますよ。

私から見た長谷川先生

坂下 智美

音楽が好き。特にBruce Springsteen。昔村上春樹を読んでいて、甘いものが好きで、おいしいお店をおしえてくれる。星のことをよく知っているロマンチスト。パソコンで困ったら助けてくれる。まじめすぎる学生が苦手。「昔は女にもてた。」とよく言う。うまく聞くと昔の恋の話をしてくれる。結構おしゃべり。お酒が好き。学生の自主性に任せる。でも困った時はアドバイスをしてくれるし、いろんな分野で相談にのってくれる（暇な時）。恐妻家で2人の子供がいる。O型牡牛座。まだあるけど、ゼミの紹介をしなくちゃいけないのでこのくらいにしておきましょう。

はじめに言うておきますが、私は決して模範的な（真面目と形容されるような）学生ではありません。でも卒論のテーマが見えている人が書いたゼミ紹介なんて読んでもあまり参考にならないと思うので、試しに読んでみてください。

「長谷川先生は厳しい」と毎年どの学年でも言う人がいるみただけけれど、それは実力だけが評価対象になるからだと思う。講義でもゼミでも、人の真似や手抜きが通用しません。しかし、がんばってやれば必ずそれを返してくれます。大学は試験をしても回答を返さないことが多いので、自分の回答が先生にどう評価されているかわからないことが多い。だから評価に疑問がある場合がたま～にあります。でも長谷川先生はオープンでクリアな評価をしてくれる。やればやっただけ認めてくれる。自分がやりさえすれば、長谷川先生は全然厳しくないです。

地理に来た以上、卒論を書くことは必ず飛び越えなくてはならないハードルです。厳しくてもそれは当たり前のことです。もし自分のやりたいことが見つかったら、それが長谷川ゼミの守備範囲なら、

迷わずに長谷川ゼミを選ぶことをお勧めします。

じゃあ長谷川ゼミでどんなことができるか。地形（ごく一般的な地形から、サンゴ礁地形を含む海岸地形・周氷河地形など）、リモートセンシング、GIS、環境問題など、いろんな分野について面倒を見てくれます。先生自身は「卒論程度の内容なら、何でも面倒見れるよ。」と心強い発言をしてくれているので、どんどん頼りましょう。

ゼミを決める前になって心配すること。「やりたいことがちゃんと決まっていない人はどうしたらいいか」。こんなことで悩んでいる（悩んだ）学生は少なくないでしょう。私も全然決まっていなかったの、そういう人の気持ち、よくわかります。でも3年間いろんな先生の講義を聴いていけば、どの先生のどういう話を聴いた時、自分が一番楽しかったかくらいは思い出せるはず。そういう些細なことから発展させていけばいいんです。あとは先生の人柄をよく観察する。人間だから「合う・合わない」があると思います。それほどやりたくないことを、合わないゼミで2年もやるのは辛いです。自分がいいと思った先生の指導のもとで、自分の惚れ込んだテーマの卒論を書くのが一番いいと思う。

しつこいようですが私は決して模範的な学生ではないです。でも長谷川ゼミに来て良かったと思っているし、これを読んだ人が頭の片隅に「長谷川ゼミかあ～」と記憶してくれればいいなと思います。内田ゼミのこと

鈴木 麻子

もしもあなたが高校までの地理が大好きで、「どの町で何やってて、何という川が流れて、何作っています」といった暗記型特産物地理を、徹底的に大学で学びたいのなら、それはちょっと違いますよ。大学の地理は、特に国土館の

地理は受け身な部分はほんの少力で、ほとんどが自分で調査し、研究し、考察し、私なんて今まで見たことも、まして使ったこともない研究用品をあてがわれ、四苦八苦したものでした。研究用備品リストでもわかりますように様々な研究用機器を学生に開放しています。超高価であなたが壊したら一生かかっても弁償できないようなシステム達を、おしみなく学生に使わせてくれているのです。

こんなに自由に開放している大学はあまりないそうです。この意味がわかりますか？先生達の理解がなければ、この環境は与えられないのです。本気で地理を学ぼうというのならとおきの環境ですし、また自発的に自分の研究を進めていかなければいけないことも意味しています。

自発的に研究を進める、という大前提で3年次から、卒論作成の準備とともに、それぞれの先生のもとでゼミが始まります。私が所属していたのは内田ゼミで、人文地理学の実証的研究、認知行動主義や人文主義といった新しいタイプの地理を主としています。「もう1」地理に新しい分野を確立してやろう。」ぐらいの勢いがあるのなら、内田ゼミをお勧めします。どうも自分の興味の対象がズレてて、人はこの考えをまずいという、そんな”みんなは受け入れない系”でも、先生は真剣に受け止め、それなりに言い返してくれます。遠慮なく考えたこと、疑問に思うことをぶつけてください。それが内田先生のもとではいい卒論につながっていくような気がします。

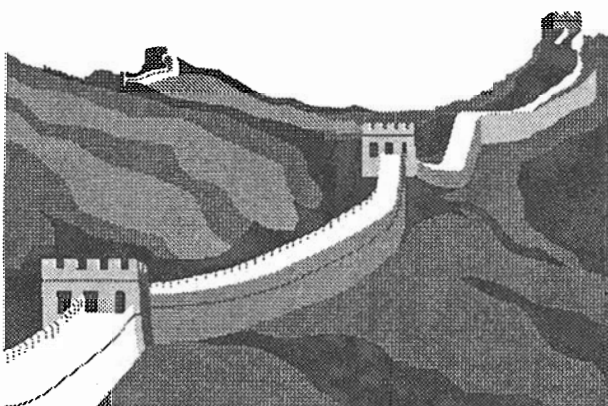
ここで私が後悔したことを挙げます。内田ゼミはとにかくハードです。3年次、興味のある文献を読み、発表するにあたり、他ゼミでは後期1～2回でした。しかし内田ゼミでは、それが毎週の授業で行われました。木曜日が近づくとブルーで、胃に穴が開く気がしたほど、それは

精神的負担を与えるものでした。忍耐力のない私は、途中もうお手上げ状態で、文献を読むことを怠ってしまいました。結局そのしわ寄せは、4年次の卒論にやってきました。論文を書く上での骨組みがあやふやで、もう1回読み直して勉強するには時間はありませんでした。あのとき先生の言うとおり論文を読みあさっていれば…と思います。

毎日、自分だけのためにあるように思えた長いゼミも、完璧にやってきたつもりでも盲点を突かれる悔しさも、今では有り難いと思う反面、口うるさく言われたことを消化できなかった自分に一番腹立たしく感じています。

皮肉なもので、勉強したいと思ったときには卒業でした。大学4年間で私には知識として残せたものは少なく、せめて卒論で満足できたならよかったのですが、納得のいくものは書けませんでしたし、やっぱり後悔ばかりです。

とにかくそのときはうっとうしくても、内田先生に鍛え上げられれば、卒業してから卒論を読み返し、学業面を振り返ったとき、「ヘヘン！」と思えるはずですよ。



岡島ゼミ

田上雅伸

ゼミとは、自分が2年生までの大学生活で興味を持った分野を一つに絞り込み、その分野について研究していくものである。これは、3年生の前期からスタートするが、はっきりいってその時期にそこまで絞り込める学生というのは、ほんの一握りのような気がする。しかし、人文地理と自然地理のどちらが自分にあっているのかというのは、授業を受けていくうちに自ずと分かるものである。まずそれがゼミ選択の第一段階といえる。

私も、そこまで一つに絞り込むことはできずに、ただ人文地理がやりたいという考えしか持っていなかった。しかし、ゼミの選択がそのまま卒業論文につながるとなると、決して安易な気持ちのままでは選べないものである。最終的にどのゼミを選択するのかという事は、自分自身の問題である。もし、「友達と一緒にいいから」などという簡単な気持ちでゼミに入ったとすると、後々苦勞するのは本人なのである。どの分野について卒業論文を書くのかという事をしっかりと考え、ゼミの選択を行うべきである。卒業論文とは、自分でテーマを設定し調査を行い、20,000字以上にまとめなければならない。これだけの字数を書くのは、はっきりいって並大抵のことではない。しかし自分が興味を持ち選んだ分野だと、さほど苦痛にならない。だからこそ、ゼミ選択をする際はこういったことを頭に入れ、慎重に行わなければならない。

堅苦しい説明は以上として、我らが岡島ゼミを簡単にではあるが紹介したい。岡島ゼミは、主として歴史地理・交通地理・都市地理に興味を持つ学生を対象とした、人文地理のゼミである。というのが簡単な説明であり、たてまえである。岡島ゼミに在籍した私が本当にいいたいことは、「岡島先生はクールで、ギャグ

が通じなくて、真面目で、それから……」
といった、まるで理想を絵に描いたよう
な先生(?)であるような気がするけれ
ど実際は……ということである。私の
岡島先生に対する第一印象は、「何だか
よく分からない先生だな」というもので
あった。そして岡島ゼミに入り、一年半
先生と接してきた現在の印象は、「何だ
かよく分からない先生だな」というもの
である。そのくらいいろんな面で不思議
な先生であり、そこがまた魅力なのであ
る。私の学年の岡島ゼミは、男性だけの
暑苦しいゼミであった。

しかし先生は一人一人の自主性を尊重
した教育に心がけられ、学生が壁にぶつ
かりどうしようもなくなった時だけ、ど
こからともなく現れ、心温まる口調で的
確なアドバイスを下さり、またどこかへ
消えていくというようなまるでスーパー
ヒーローみたいな先生である。本当にこ
こまで学生のことを学生の身になって考
えて下さる先生が、この冷め切った時代
にいたなんて……。私たち岡島ゼミ生
一同は、そんな岡島先生に出会えたこと
だけでも日本一、いや世界一の幸福者か
もしれない。神様、素敵な出会いをあり
がとう。とまあ少しヨイショしすぎた感
もあるが、実際、自分自身納得のいく卒
業論文を作成することができたのは、ひ
とえに岡島先生のおかげだと思っている。

これからゼミを選択しなければならな
い皆さんも、私のように心から満足のい
くような選択をし、結果を残していただ
きたい。これは地理学専攻の先輩からの
祈りであり、おせっかいである。GOOD
LUCK!



磯谷ゼミの紹介

寺町 祥子

無事に多摩川を越え、3年生になると
いよいよゼミが始まります。ゼミ選びは
卒論に直結した、重大、かつ避けては通
れない問題です。どうぞ、大いに悩んで
ください。ここで手を抜くと、取り返し
の付かないことになるかもしれません…。
と、まずは脅しから入りましたが、それ
では何を基準に選ぶべきなのでしょう
か。担当教員との相性、重要です。これ
から2年間の(人によってはそれ以上の)
お付き合いとなるのです。信頼関係を築
けなければ困ります。あの人の下でなら
がらんばれる! そんな風におもえる先生
が既にあなたの胸中にいるのなら、迷
わず馳せ参じてください。しかし、自
分の研究したい分野がおぼろげながら
でも見えている方は、そちらから攻め
てみることをお勧めします。出来るこ
となら卒論は、楽しみながら書きたい
ですよ? 自分の興味のあるテーマでし
たら、卒論を書く上での苦勞もきつ
と、良い思い出となることでしょう。

地理学のゼミは大雑把に言うと、自然
系・人文系の2つに分けることが出来
ます。今までは自然系ゼミを選ぶ上で、
少々困ったことがありました。野口ゼミ
といえば気候学。長谷川ゼミといえば
地形学。おや、植生地理学は…? そう
です、国士館大学の地理学教室には、
植生を専門とするゼミは無かったの
です。だからと言って、植生がテーマ
の卒論を書けない訳ではありませんが、
それでもちょっと、残念ですよ。

しかし、皆さんは嘆くことはありません。
彗星のごとく飛来した期待の新人、
磯谷達宏先生が、植生学を専門とする
ゼミを担当して下さることになりました。

磯谷先生はわが校においてになる以前
は、国際生態学センターで植生調査など
様々な研究をされてました。また、アマ

ゾンヘ熱帯雨林の調査に行かれるなど、実地経験豊富なフィールドワーカー。ゼミでも機会があれば実際に野外へ学生を連れ出だし、実物を見ながらの講義を展開させていただきます。フィールドワークが楽しみで地理を選んだ人なら、充実した時間を過ごせることでしょう。

地理実習では、道なき道は何のその。藪の中をゼミ生一同、這いずり回ることになりますので、まあ、全身筋肉痛ぐらいは覚悟しておいてください。それから、磯谷先生は一步、林に足を踏み入ると、普段と様子が変わります。生き生きと活動する先生を追うのは結構大変。周囲は森です。姿を見失わないように気を付けましょう…。

普通のゼミでは主に、植生や生態学、緑地計画などの分野の論文を各人が選んで購読し、順に発表していきます。論文を理解する上で、動植物の名前や特徴を覚えることも重要です。かといって最初から詳しくなければいけない、なんてことは無いので安心してください。私たちも最初は先生の後について、校舎周辺の木々の名を覚えることから始めました。まずは身近な植物、興味を持った植物から覚えていくと良いと思います。分からないことがあったら、どんどん先生に質問しましょう。「そんなことも知らないのか！」的な質問でも、きっと笑って答えてくださる、はずです。

何はともあれ、できたてホヤホヤのゼミです。磯谷先生と共に、新しいゼミの歴史を築いていきませんか？

教室の設備・機材

<鶴川キャンパス>

鶴川キャンパスには、研究棟の3Fに教員研究室（岡島、磯谷先生）、9号館2Fに暗室、同じく3Fに地理実習室、地理実験室、地理準備室、プレハブに岩石標本

室があります。

地理データ分析入門や情報科学関連の講義で使用するパソコン・端末は、情報科学センター（9号館4F）の機器（端末室に100台以上設置されている）を使用します。2年生の専門科目である地理データ分析入門は、最新のコンピュータ教育支援システム（CAI）を利用して行われます。

<世田谷キャンパス>

世田谷の10号館の2F、4Fには教員研究室（長島、瀬戸、野口、長谷川、内田）、地理情報処理室、自然地理分析室、図書資料室があります。地理情報処理室は10号館の正面玄関に面したガラス張りの部屋で、気象衛星「ひまわり」、海洋気象衛星「NOAA」の画像がリアルタイムで受信され、30インチの大型ディスプレイで表示しています。また、室内には気象ファックスが設置されていて、これも常時様々な天気図を受信しています。

さらにここにはパソコンの他に3台のワークステーション(含X端末)があり、リモートセンシングの解析に使われています。また、GIS（地理情報システム）のシステムも導入され、今後の活用が期待されています。この他にも情報科学センターとLANで結ばれた端末や、十数台のパソコンが設置されています。

室内の大テーブルや学生用パソコンの周辺には、いつも多くの学生がいます。また、地理学会の活動などもここを中心にしておこなわれています。上級生に遠慮する必要はありませんので、図書などを借りるついでにぜひ世田谷の地理学教室に顔を出して下さい。

最近、ワープロやパソコンを所有する学生が非常に増え、レポートや卒論もこれらを使って書く学生が大部分を占めるようになりました。地理学教室には、先

に記したように十数台のパーソナルコンピュータやワークステーション、フルカラーデジタルプリンターをはじめとする最新鋭の情報処理機器が備わっており、教員と学生が活用しています。情報処理機器やワークステーションに組み込まれたシステムの充実度は、全国の地理学教室の中でトップレベルにあります。

資源探査衛星「ランドサット」や「スポット」のデータ処理システムは、パソコン用とワークステーション用にそれぞれ複数の種類のシステム（SUN7とX端末を中核とする磁気テープ装置、Mac、PC98パソコン、ピクトグラフィ出力装置）が運用され、支援ソフトウェアとして、PC用のOM-SATやマイクロレスト、EWS用としてCRESCENT、EXIPEI/Sなどが整備されています。また、地理情報システム（GIS）の研究用システムも充実しています（あRC/INFO,ArcView,GEO-STRAなど）

このほか、リモートセンシング教育用には、50セットの解析ソフト（OM-SAT/WIN）が情報科学センターのシステムにインストールされており、1998年には新たに地理情報システム（GIS）が50セット導入され、授業で使われるのを待っています。

現在、世田谷の情報科学センター施設を利用する地理学専攻の専門科目としては、地理調査法、統計情報学、計量地理学、リモートセンシング、地理情報システムなどがあります。このほか、地図学、地図製作法には、情報科学センターKAEDEネットを構成する研究室EWS上にGIS用のARC/INFOが提供され、測量学、測量実習には、光波測距儀、デジ列ポラトなどの新規購入機器が整備されています。

また、気候学やリモートセンシングの解析で使用する様々な気象データや地表データが磁気テープやCD-ROMのかた

ちで多数保管されています。

<研究用器材>

研究室で新たに購入した教育・研究用機器についてはニューズレターでその都度公表されます。教室所有の教育・研究用機材は、この冊子の最後に付録として概略が表示してあります。

学生は、原則として卒論・個人研究用にこれらの機材をすべて利用することができます。しかし、機材の使用方法を熟知していることが条件です。使用方法などは、教員（野口・長谷川）に問い合わせてもらって良いでしょう。

<岩石標本>

鶴川キャンパスの岩石標本室には東大農学部から譲り受けた世界各地の貴重な岩石・化石標本が数千点保管されています。現在、十分な管理が行き届いているとは言えず、どのように役立てるかが課題です。

PCの利用と講習

レポートや卒論をまとめる際にPC（パソコン）を使うのは、もはや常識になりました。手書きの卒論を提出する人は、年に2~3名しかいません。地理学教室では、従来、レポートや卒論に専用の原稿用紙を作り、学内の書店で販売していましたが、現在は在庫切れで補充する計画もありません。大学でも、希望する学生全員に大学のコンピュータシステム（正式にはkaede-netとよばれるネットワークシステム）を開放しています。ただし、使用にあたっては、ネットワークを使うための基本的な使用方法やモラルに関する講習が義務づけられます。

さて、このような講習を受けさえすれば、端末室が講義で使用中でない時間は、自由にPCが使えますから、レポートをまとめたり、インターネットを使用した

り、E-mailを交換することができます。もちろん、無料です。ですから、個人でPCを購入する必要はとりあえずありません。しかし、学年が進むにつれてこれらの使用頻度は高くなりますから、結局はPCを自宅で揃える人が多くなります。自宅でレポートをまとめたり、インターネットで情報を収集する必要も出てきます。大学の施設を使うだけでは、時間的な制約もあるわけですから。

<PCの購入>

学内ではインターネットやE-mailを使うのは比較的自由にできますが、自宅から電話回線などを使って大学のネットワークに入ることは、今のところ学生には許可されていません。従って、自宅でインターネットに接続するためには、PCを揃え、接続業者（プロバイダという）と契約しなければなりません。どんなPCを買い、どの業者と契約したらよいかは、結局は自分で決めなければなりません。数多いパソコン雑誌を何種類か購入し、慎重に選んでください。先生や先輩、これらに詳しい友人に聞いても良いでしょう。大学生になってアルバイトで初めて買う「高額商品がPCと付属品」という人が多いのではないのでしょうか。99年春現在、約20～25万円でデスクトップPCとプリンター、20～30万円でノートPCとプリンタの、比較的安い（しかし充分使える）製品が購入できます。実際にはこれより安く購入できる商品も多いのですが、初めての方は正規のメーカー品を普通のPCショップや、名の通った通販専門PC会社から購入するのが良いでしょう。

実際にPCを購入する場合、OS（オペレーションシステム）の違いで、MacかWinかという選択をしなければなりません。その他のOSは、いまのところ考え

ない方が良いでしょう。

MacかWinか、実際には好みの問題で、どちらを買ってもかまいません。ちなみに、大学で講義につかうPCのOSはWinです。アプリケーションソフトは、とりあえずワープロ、表計算、データベース、インターネットブラウザが入っていれば良いでしょう。

<地理学教室におけるPCの利用>

地理学専攻の講義で、PCを使用する講義は数多くあります。一例をあげると、地図学、地理データ分析入門、リモートセンシング、地理情報システム、計量地理学、統計情報学などです。また、人文、自然に関係なく卒論の際に、統計解析を行うことが多く、PCやアプリケーションソフトの利用に、低学年のうちから精通している必要があります。

わざわざ専門学校へPCを習いに行く必要などありません。低学年の間に情報科学関連の講義を受講しておけば、結局は就職などの際にも有利になることでしょう。

地理学関係の図書・資料

<国土舘大学中央図書館>

図書館の利用

国土舘大学には鶴川キャンパスにメイプルホール（2,3F）の図書館が、また世田谷キャンパスに中央図書館があって、学生に利用されています。

図書館を頻繁に利用するようになるのは、3～4年生になって卒論の準備を始める頃というのが一般的なようですが、1～2年生のうちから図書館に足を運んで、何の本がどの辺の書架にあるかくらい見当がつけられるように慣れて欲しいと思います。図書館で過ごす時間よりもアルバイトに費やす時間の方が長いというのはどう考えても異常です。

<地理資料室>

世田谷の地理学教室では、学生が頻繁に利用すると思われる地理学関係の専門書を、毎年相当数計画的に購入しています。新たに購入した書籍・雑誌はニュースレターで公表されます。

これらの書籍は、世田谷校舎の図書資料室で手続きの後、1週間の貸出サービスを受けることができます。利用時間は、教員の「在室時間割」（ニュースレターに掲載）を参考にしてください。

また、97年度から鶴川の文学部共同利用図書室（事務室前）でも基本的な専門図書の閲覧ができるようになっています。

なお、地理学関係の専門雑誌の情報は地理学教室発行の「卒論の手引き」に詳しくまとめてあります。また、必要最低限の書籍・雑誌情報はこの冊子の最後にまとめてあります。

<地形図>

研究室で所有している地形図・地質図などのリストはデータベース化してコンピュータに入力中で、その一部（新旧1/50,000、1/25,000地形図）が公開されています。このリストはパソコンで検索できません（担当：長谷川）。またこれらの地形図類は、研究室（世田谷）で閲覧できますが貸出サービスは行っていません（担当：瀬戸）。

<空中写真・LANDSATデータ・数値地図データ>

研究室で所有している空中写真・ランドサットデジタルデータ(MT、FLOPPY DISK)などのリストは教員に問い合わせれば見るすることができます。またこのリストはニュースレターのバックナンバーで見ることができ、またパソコンで検索できます（担当：長谷川）。授業で利用し

ている場合は貸し出せませんが、それ以外は貸出サービスを受けることができます。ただ、これらの複製はできません。

機器・書籍などの購入には学生の希望を出来る限り受け入れます。しかし、機器類の購入は前年度に予算化しなければなりませんので出来る限り早めに教員に希望を伝える必要があります。教室では、利用頻度、必要性などを協議したうえで購入の可否を決定します。

<過去の卒業論文>

1983（昭和58）年度以降の約800編の卒業論文のリストがあります。教員に問い合わせるか、世田谷の地理図書室の書架にある「卒論リスト」ファイルを参照してください。

毎年1月発行のニュースレターにはその年の公開卒論口頭試験で発表される卒論の一覧が掲載されます。また、地理学教室のインターネットホームページやこの冊子の付録に過去2～3年の卒論タイトル（合格したもの）が掲載されています。

10年ほど前から、あるレベル以上の評価を受けた卒論は製本して地理学教室の資料室に保管されていますので、見るすることができます。最近では、製本されなかった卒論は卒業式の日学生に永久貸し出し（返却）しています。ただし、返却せずに保管している教員もいます。さらに古い卒業論文は研究室で保管していますが、公開・貸出は担当教員（主査）の判断で行っています。

<地理関連図書の所在>

1～2年生に必要な基本的な図書は鶴川の図書館に備わっているはずですが、世田谷の中央図書館にあるものは図書館経由で取り寄せられます。もし欲しい図書が見つからない場合、図書館に購入希望を出すか、地理学教室に申し出てください。

い。

地理学教室では組織的に地理の専門図書を購入して、世田谷キャンパスの地理学教室資料室に配架していますので、一度は世田谷の地理学教室を覗いてみるとよいでしょう。

また、専門分野の図書に関しては教員が一番蔵書をかかえているかもしれませんが、身近な教員に相談するのが一番の近道かも知れません。

また、地理学教室では、これまで発行された数千冊の地理関係の和書・洋書について、分野別・出版社別リストが作成されており、中央図書館や地理資料室で購

入されているかどうかはすぐに分かるようになっています。パソコン上で検索することも可能です。これも、教員（野口・長谷川）に聞いてください。

<地理学関連の専門雑誌・辞書・事典>

1～2年生では地理学の専門雑誌にまだ馴染みがないかもしれませんが、3～4年生になると、授業や卒論の準備で地理の専門雑誌に目を通す必要が度々出てきます。そこで、参考のために国土舘大学中央図書館と地理学教室の資料室（いずれも世田谷）にある地理学関係の雑誌をリストアップしておきます。

中央図書館所蔵の地理学関係雑誌一覧

A	アフリカレポート (アフリカ研)	Z305 A18	Catena	Z290 C26
	アフリカ研究	Z302 A92	Climatic Change	Z451 C78
	アフリカ経済 (アフリカ研)	Z302 A92	D 第四紀研究	Z290 D28
	アフリカ経済資料月報 (アフリカ研)	330.3A92	E Earth Surface Processes and Landforms	Z450 E11
	アフリカ経済研究所年報 (アフリカ研)	Z302 A92	Economic Geography	Z332 E19
	アフリカ太平洋経済社会年報 (国連)	Z330 A92	Die Erde	Z290 E67
	アフリカ研究ニュース	Z220 A92	Erdkunde	Z290 E67
	秋田県気象月報(1983, 1984)	Z451 A37	F 福島県気象月報	Z451 F84
	青森県気象月報(1983, 1984)	Z451 A54	G 岳人	Z786 G16
	Agricultural and Forest Meteorology	Z450 A19	月刊アフリカ研究	Z302 G32
	Annales de geographie (Paris)	Z290 A49	月刊日本の生物	Z460 G32
	Annals of the Association of American Geographers	Z290 A49	月刊天文	Z440 G32
	Archives for Meteorology, Geophysics and Bioclimatology, Series A	Z450 Me83	月刊地質ニュース⇒地質ニュース	Z450 C48
	Archives for Meteorology, Geophysics and Bioclimatology, Series B	Z450 Th3	Geografiska Annaler (Ser. A)	Z290 G35
	Arctic and Alpine Research	Z450 A68	Geographical Abstracts: Physical Geography	Z290 G35
B	貿易と関税	Z678 B62	Geographical Journal	Z290 G35
C	加ガ研究年報	Z319 C15	Geographical Review	Z290 G35
	地学雑誌	Z450 C43	Geographische Zeitschrift	Z290 G35
	地域 (大明堂)	Z290 C44	Geography	Z290 G35
	地域開発	Z360 C43	GeoJournal	Z450 G35
	地形	Z454 C44	Global Ecology and Biogeography Letters	Z519 G52
	地球科学	Z450 C44	H 北海道の気象(1983, 1984)	Z451 H82
	地理 (古今書院)	Z290 C47	Heating and Air Conditioning Journal	Z533 H51
	地理学評論	Z450 C47	Heating, Piping and Air Conditioning	Z533 H51
	地理科学 (広島地理学会)	Z290 C47	I 茨城県気象月報(1983, 1984)	Z451 I11
	地質学雑誌	Z450 C48	遺産	Z467 I19
	地質ニュース	Z450 C48	岩手県気象月報(1983, 1984)	Z451 I97
	地質と調査	Z450 C48	Institute of British Geographers	
	地図	Z291 C49		

	Transactions and Papers	購読中止	国際協力事業団年報	Z319 Ko51
	Instruments and Control Systems	Z530 I57	駒沢地理	Z290 Ko62
	International Journal of Climatology	Z290 I57	高層月報 (気象庁)	Z451 Ko88
	International Journal of Remote Sensing	Z454 Z54	交通と統計	Z680 Ko94
J	人文地理	Z290 J51	M Meteorology and Atmospheric Physics	Z450 Me83
	情報処理 (情報処理学会)	Z007 J66	Monthly Climatic Data for the World	Z451 Mo38
	Journal of Biogeography	Z470 J82	Monthly Report of Meteorological Satellite Center	Z451 Mo38
	Journal of Climatology	Z290 J82	N 日本統計月報	Z351 N77
	Journal of Cold Regions Engineering	Z540 J82	日本気候表	Z451 N77
	Journal of Ecology	Z470 J82	日本民俗学 (日本民俗学会)	Z380 N77
	Journal of Geography	Z290 J82	日本生気象学会誌	
	Journal of Geology	Z450 J82	日本生態学会誌	Z468 N77
	Journal of Irrigation and Drainage Engineering(ASCE)		日本リモートセンシング学会誌	Z454 N77
	Journal of Sedimentary Research		日経'シ'社	Z336 N73
	Journal of Soil Science	Z611 J82	日経サイエンス (=サイエンス)	Z400 Sc1
K	科学	Z400 Ka16	農業土木学会誌	Z614 N93
	科学朝日	Z400 Ka16	農業土木学会論文集	Z614 N93
	海外移住	Z334 Ka21	農業気象	Z613 N93
	海岸	Z518 Ka21	農業総合研究	Z610 N93
	海岸の科学	Z550 Ka21	農業総合研究所年報	Z610 N93
	海岸統計 (建設省河川局)	Z518 Ka21	農業水産統計月報	Z610 N96
	観測所気象年報 (気象庁)	Z451 Ka59	農業と経済	Z611 N93
	火災 (日本火災学会)	Z524 Ka72	National Geographic Nature	Z450 N57 Z400 N58
	河川 (河川協会)	Z517 Ka74	O 大阪府気象月報	Z451 O73
	かんきょう (ぎょうせい)	Z519 Ka56	P Photogrammetric Engineering and Remote Sensing	Z454 P56
	環境情報科学	Z519 Ka56	Professional Geographer	Z290 P94
	環境科学総合研究所年報	Z519 Ka56	Progress in Physical Geography	Z290 P94
	環境研究 (公害調査センター)	Z519 Ka56	Q Quaternary Research	Z450 Q2
	環境と公害	Z579 Ka56	R 歴史地理 (日本歴史地理研究会)	Z205 R25
	計測と制御	Z501 Ke27	歴史地理学	Z290 R25
	経済 (=月刊経済)	Z330 G32	歴史地理学紀要	Z290 R25
	経済 (=季刊経済)	Z330 Ke29	歴史地理教育	Z375 R25
	経済地理学年報	Z330 Ke29	Remote Sensing of Environment	Z454 R26
	経済統計月報 (日銀統計局)	Z330 Ke29	S サイエンス⇒日経サイエンス	Z400 Sc1
	経済統計年報 (日銀統計局)	Z330 Ke29	雪氷	Z451 Se78
	季刊地理学 (=東北地理)	Z291 Ki21	社会地理 (日本地図)	Z290 Sh12
	季刊人類学 (京都大学人類学会)	Z469 Ki21	社会学評論 (日本社会学会)	Z361 Sh12
	季刊海洋時報 (日本海洋協会)	Z550 Ki21	写真測量とリモートセンシング	Z454 Sh13
	季刊環境研究 ⇒環境研究	Z519 Ka56	資源科学研究所彙報	Z519 Sh29
	季刊農業総合研究 ⇒農業総合研究	Z610 N93	資源環境対策	Z519 Sh29
	気候系監視報告 (気象庁)	Z451 Ki22	新地理	Z290 Sh61
	気象 (日本気象協会)	Z451 Ki58	新砂防	Z656 Sh69
	気象庁月報	Z451 Ki58	自然 (中央公論社)	Z405 Sh93
	気象庁年報	Z451 Ki58	植物と自然	Z405 Sh96
	気象庁観測技術資料	Z451 Ki58	週間'シ'作'シ'	Z330 Sh99
	気象庁技術報告		週間東洋経済	Z330 Sh99
	気象研究ノート (日本気象学会)	Z451 Ki58	測候時報 (気象庁)	Z451 So32
	気象年鑑 (日本気象協会)		測量 (日本測量協会)	Z521 So32
	気象要覧 (気象庁)	Z451 Ki58	水温の研究 (水温調査会)	Z452 Su51
	研究時報 (気象庁)	Z451 Ki58	水利科学	Z517 Su51
	公害研究	Z519 Ko24	Science	Z405 Sc9
	公害と対策	Z519 Ko24	T 天気	Z451 Te88
	工業立地	Z332 Sa63		
	国際協力	Z319 Ko51		
	国際協力研究	Z305 Ko51		

天気図	Z451 Te36
東北地理 ⇒季刊地理学	Z291 Ki21
東北大学理科報告(地理学)	Z290 To25
東京大学地震研究所彙報	Z453 To46
東京都気象月報	Z451 To46
東南アジア研究(京大東南アジア研センター)	Z223 To63
都市計画(日本都市計画学会)	Z318 T72
都市問題(東京市政調査会)	Z318 To72
都市問題(政府資料調査会)	Z318 To72
Theoretical and Applied Climatology	Z450 Th3
Transactions of the Institute of British Geographers	Z290-I57
Y 山形県気象月報(1983, 1984)	Z451 Y22
Z Zeitschrift fur Geomorphologie	Z450-Z2
Zeitschrift fur Geomorphologie, Supplement	Z450-Z2

このほか、各大学の地理学教室などで出版されている雑誌がありますが、それらは交換雑誌として、地理資料室に保管されています。

地理資料室所蔵の地理学関係交換雑誌

- A 愛知大学地理学研究所報告(愛知大学文学部地理学教室)
愛知大学史紀要
秋田地理(秋田地理学会)
Annual Report, Inst. Geoscience,
the University of Tsukuba
- B 文教大学地理学報告
Bulletin of Int'l Research Center for
Japanese Studies
- C 地域調査報告(筑波大学地球科学系)
地域研究(立正地理学会)
地域研究(鳴門教育大学地理学研究室)
地域学研究(駒澤大学応用地理研究所)
地理(古今書院)
地理学研究(駒沢大学大学院)
地理学研究報告(千葉大学教育学部地理学研究室)
地理月報(二宮書店)
地理誌叢(日本大学地理学会)
地誌学研究資料(三重大学人文学部地誌学系)
地図情報(地図情報センター)
- E えりあくま(群馬地理学会)
ERSDACニュース(資源環境観測解析センター)
Environmental Research Center Papers
(University of Tsukuba)
- G ギョウワカ セリガカ(関西大学文学部地理学教室)
Geographical Reports of Tokyo Metropolitan
University
- H 弘大地理(弘前大学教育学部地理学研究室)
北海道地理(北海道地理学会)
北海道教育大学旭川校地理学研究所報告
法政地理(法政大学地理学会)
法政大学文学部紀要
法政大学日本統計研究所報
- 法政大学自然地理学報告(法政大学地学研究室)
法政大学大学院地理研究
法政人類学(法政大学人類学研究会)
J Japanese Progress in Climatology
(法政大学地理学科)
人文地理学研究(筑波大学地球科学系)
JODC ニュース(日本海洋データセンター)
- K 海洋情報研究センターニュースレター
(日本水路協会)
神奈川県温泉地学研究所報告(⇒観測日より)
環境情報研究(千葉敬愛短期大学環境情報研究所)
環境科学研究科年報(筑波大学大学院環境科学研究科)
環日本海地域比較史研究(新潟大学環日本海地域
比較史研究会)
川村学園女子大学研究紀要
活断層研究(活断層研究会)
経済と労働(東京都労働経済局)
研究紀要(地理)(=日本大学文理学部自然科学
研究所紀要)
季刊沖縄(財団法人沖縄協会)
近代化と環境変化ニュースレター(立正大地理学教室
・近代化と環境変化事務局)
高度リモートセンシング技術資料(資源観測解析セン
ター)
皇學館史学(皇學館大学史学会)
国土地理院時報
駒澤地理(駒澤大学文学部地理学教室)
空間・社会・地理思想(大阪市立大学文学部地理学
教室)
京都府立総合資料館紀要
- M 宮崎産業経営大学研究紀要
- N 名古屋地理(名古屋地理学会)
名古屋大学地理学研究所報告
奈良大地理(奈良大学地理学会)
奈良大学地理学研究所報告
日本地理学会予稿集
日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要(地理)
日本自然保護協会調査報告
- O 大分地理(大分大学教育学部地理学教室)
お茶の水地理(お茶の水地理学会)
沖縄地理(沖縄地理学会)
沖縄問題研究シリーズ(沖縄協会)
- R 歴史地理学調査報告(筑波大学歴史人類学系、
歴史地理学研究室)
リモートセンシング研究所報告(東京理科大学)
理論地理学ノート(空間の理論研究会)
立命館地理学(立命館地理学会)
RESTEC(リモートセンシング技術センター)
RUGAS(立教大学地理人類学研究)(立教大学文学
部地理学教室)
- S 新地理(日本地理教育学会)
自然保護(日本自然保護協会)
自然環境科学研究(平岡環境科学研究所)
秋大地理(秋田大学教育学部地理学研究室)
Science Reports of the Inst. Geoscience, Univ.
Tsukuba

- T 東北文化研究所紀要（東北学院大学）
 東北大学理科報告（地理学）
 筑波大学水理実験センター報告
 敦賀論叢（敦賀女子短期大学）
 U Urban Kubota

図書館および地理学研究室には地理関係の辞書・事典がそろっています。代表的なものを地理の分野別に挙げておきます。

地理学関係の辞書・事典

<地理学全般>

- 地理学辞典増補版（改訂版）（二宮書店）
 最新地理学辞典（新訂版）（大明堂）
 最新地理小辞典（二宮書店）
 改訂版地理用語集（山川出版）

<地図学・リモートセンシング>

- 地図学用語辞典（技報堂）
 図説地図辞典（武揚堂）
 世界地図情報事典（原書房）
 世界地名語源辞典（古今書院）
 暦と時の事典（雄山閣）
 リモートセンシング用語辞典（共立出版）
 資源探査のためのリモートセンシング用語辞典（資源観測解析センター）

<地形・地質学>

- 地形学辞典（二宮書店）
 地学事典（平凡社）
 新版地学辞典（3巻）（古今書院）
 雪氷辞典（古今書院）
 地震の事典（朝倉書店）
 堆積学辞典（朝倉書店）
 土壌の事典（朝倉書店）

<気象・気候・水文学>

- 気象ハドブック（朝倉書店）
 気象の事典（平凡社）
 新版気象の事典（東京堂）
 気候学・気象学辞典（二宮書店）
 生気象学の事典（朝倉書店）
 農業気象用語解説集（日本農業気象学会）
 農業気象学用語集（日本農業気象学会）
 風の事典（原書房）
 地下水学用語辞典（古今書院）
 海洋の事典（東京堂）
 CDROM台風の事典（丸善）
 天気予知ことわざ辞典（東京堂）
 季節の事典（東京堂）

<生物地理・生態学>

- 生態学辞典（築地書館）
 生態の事典（東京堂）
 植物の事典（東京堂）
 増補植物の事典（東京堂）
 植物観察事典（地人書館）
 農学大事典（養賢堂）
 植物保護の事典（朝倉書店）
 世界有用植物事典（平凡社）
 木の実草の実事典（月刊さつき研究社）
 日本の野生植物（草本）3巻（平凡社）
 日本の野生植物（木本）2巻（平凡社）
 日本の植生図鑑（I, II）（保育社）
 原色樹木大図鑑（北隆館）
 原色日本植物図鑑（保育社）
 原色日本帰化植物図鑑（保育社）
 淡水指標生物図鑑（保育社）
 改訂増補牧野新日本植物図鑑（北隆館）

<災害・環境>

- 災害の事典（朝倉書店）
 自然災害科学事典（築地書館）
 災害予知ことわざ辞典（東京堂）
 昭和災害史事典（日外アジエツ）
 地球環境用語辞典（東京書籍）
 都市環境学事典（朝倉書店）

<地域・地誌>

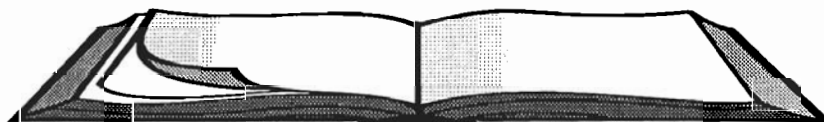
- アフリカを知る事典（平凡社）
 アフリカを知る事典（平凡社）
 仏語を知る事典（平凡社）
 独語を知る事典（平凡社）
 フランス語を知る事典（平凡社）
 OPA・リ連を知る事典（平凡社）
 朝鮮を知る事典（平凡社）
 東南アジアを知る事典（平凡社）
 事典 アジア・太平洋（中央経済社）
 太平洋諸島百科事典（原書房）
 世界地名大事典8巻（朝倉書店）
 東京百科事典（国土地理協会）

<人文地理学>

- 人文地理学辞典（朝倉書店）
 日本歴史地理用語辞典（柏書房）
 新版郷土史辞典（大塚史学会）
 部落史用語辞典（柏書房）
 歴史的町並み事典（柏書房）
 人口事典（家族計画国際協力財団）
 人口事典（東洋経済新報社）
 県別日本人気質「県別性格辞典」（河出書房新社）

<その他>

- 統計学用語辞典（丸善）
 文化人類学事典（弘文堂）



地理学教室の出版物と案内

「国土館大学地理学報告」

教員・在校生・卒業生でつくる国土館地理学会から「国土館大学地理学報告」が年に一度発行され、教員の論文と優秀卒論のダイジェストが掲載されています。地理学教室からは、学生や父母とのコミュニケーション用に「ニュースレター」が年に2度発行され、教室の行事、教員の活動、人事、在室時間、購入器材・図書などが紹介されています。このほか、新入生用には地理学教室の周辺を細かく紹介したこの「地理学教室のしおり」があり、ゼミ学生用には数10ページの充実した「卒論の手引」が版を重ねて15年目を迎えています。また、98年3月には、学生の就職活動を支援する目的でパンフレット「地理学教室のご案内」が作成されました。

「ニュースレター」 Newsletter

今から10年以上前、地理学教室では教育の質を高めるためにはどうしたらよいかといろいろ考えました。自然地理概説と人文地理概説の授業を2クラスの小編成にしたり、カリキュラム改革を他専攻に先がけて実施したのもその時です。また、教室と学生・父兄とのコミュニケーションを高めるために「Newsletter」を発刊しました。1988年6月に1号が出て、年2度の発行で、今回で22号を数えました。

専攻主任による発刊の辞には、「アメリカの大学の教室のように、本教室でもニュースレターの発刊を企画いたしました。このニュースレターは、関係者方々の便宜に供するために教室の情報を提供するもので～」とその目的を記しています。

学生や父兄に地理学教室の声を届けたいという目的でしたから、学生が興味を持ちそうな情報をいろいろ考え、1号には教室人事、教員の講義・在室時間、地

理学教室の時間割表、新カリキュラムの説明、新規購入器材・図書、地理実習（巡検）の記録、教員の研究活動などが紹介されました。

パンフレット「地理学教室のご案内」

このパンフレットは学生の就職活動を支援する目的で作成されました。

就職活動で自治体や会社訪問をする学生に、自己紹介を兼ねて名刺代わりにこのパンフレットを提出してもらいます。自分の名前や住所が書けるように、白抜きの枠を設けたのもそのためです。

ただし、このパンフレットは怖い一面を持っていますのでそのつもりで使ってください。パンフレットを利用する学生は、そこに書いてあるように、自分が4年間大学で何を学んできたかを自信を持って説明できなければなりません。

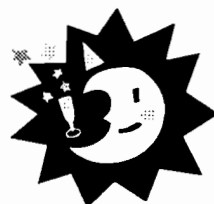
「地理学教室のしおり」

説明する必要は無いと思います。皆さんが今手にとって見ているこの冊子が地理学教室のしおりです。新入生のオリエンテーション用に作成したもので、地理学教室の周辺のことをすべて網羅されています。

これでも分からない点は遠慮なく教員に聞いてください。

「卒論の手引き」卒業論文作成上の注意

まだ、先の話ですが、改訂を重ねて充実した手引きが3,4年生用にできています。卒業論文はどのように書かなければならないかが細かく示されています。



国土館大学地理学会

国土館大学地理学会は、学生同志および学生と教員が授業以外の場で親睦を深め地理学について語り、調査研究をすることを目的として1978年（昭和53年）5月20日に設立されました。構成員は1年から4年の在學生、教員全員および卒業生の一部です。

学会の年間の行事としては総会、講演会、巡検、学生・OBの研究発表、卒業生による就職ガイダンス等と機関誌「国土館大学地理学報告」（旧「国土館大学地理学会誌」）の発行です。設立以来学会の実績は次のとおりです。

<国土館大学地理学会誌>

第6号で廃刊、以後「国土館大学地理学報告」に改題

第1号（1979年3月）

岩田孝三 『地理学の思い出』

池田雅博・田中 悟・千葉清和・秦 道夫『金沢市における都市開発と環境保全をめぐる諸問題』

第2号（1980年3月）

浅井得一 『地理学徒の覚え書き』

加藤久幸・増井克行・宮本美代子『石川県における伝統工芸産業の経済地理概報』

第3号（1982年12月）

八久保厚志『熊本県南部地方の焼酎製造業在来産業の存在形態』

武田裕一 『保倉川下流部の段丘地形』

第4号（1984年3月）

国土館大学地理学会沼津巡検班『沼津市商店街のイメージ調査報告書第1報：昭和58年度調査』

第5号（1986年3月）

国土館大学地理学会沼津巡検班『沼津市仲見世商店街パーソントリップ調査報告書

沼津市商店街調査 第2報：昭和59年度調査』

第6号（1991年3月）

国土館大学地理学会沼津巡検班『沼津市グルメ街道調査報告書

沼津市商店街調査 第3報：1986,87年調査』

<国土館大学地理学報告>

教員の論文で構成されていた隔年刊の同名の雑誌を年刊とし、「国土館大学地理学会誌」を統合・改題して発行することになった。

No.4（1995年）

瀬戸 玲子・二見 宏「関東地方における集団住宅建設の経年変化と立地条件」

石崎 裕「赤石山地東部 山伏岳付近の線状凹地・山頂小起伏面の特徴と成因について」

林田 康文「「湘南」イメージにみる空間認知について」

No.5（1996年）

内田 順文 「宮崎駿『風の谷のナウシカ』にみる「自然－人間」観と現代人の地球環境観について」

長尾 竜太郎「焼岳足洗谷における堆積土石の分布とその移動過程」

茂木 真佐美「民俗事象への多面的アプローチの試み：東京都武蔵村山市・岸の粉食を例に」

No.6 (1997年)

野口 泰生 「気温極端年における夏日・真夏日・熱帯夜・冬日・真冬日の分布について：関東甲信越地方とその周辺地域を中心に」

天井澤暁裕 「根室半島におけるアースハンモックの形成環境と分布形態」

中島 亮 「衛星データを用いた石垣島轟川流域における赤土流出域の検出：植生・土地被服・表層地質などを考慮に入れた土壤環境評価」

No.7(1998年)

長谷川 均・長谷川明雄「琉球列島石垣島白保サンゴ礁でみられるマイクロアトールの特徴
— 米原サンゴ礁との比較をもとに —」

横山美和子 「埼玉県外秩父山地大霧山斜面における夜間気温の特性とその発生頻度について」

大石 秀幸 「埼玉県外秩父山地大霧山斜面における夜間気温の特性とその発生頻度について」

<講演> (1990年以降について)

- | | | | |
|-------|-----|-------|--|
| 1990年 | 5月 | 小川 英文 | 『フィールドワークについて』 |
| | 12月 | 清水 長正 | 『日本の氷河地形研究の動向』 |
| 1991年 | 5月 | 内田 順文 | 『地理的イメージについて』 |
| | 12月 | 許 衛東 | 『雲南の少数民族の土地利用と生活』 |
| 1992年 | 5月 | 瀬戸 玲子 | 『自動図化、GIS (地理情報システム)』 |
| | 12月 | 水野 一晴 | 『卒業論文 (20代前半に書く論文) はなぜ重要か? 大学生だからこそできる地理学』 |
| 1993年 | 6月 | 沢口 晋一 | 『スピッツベルゲン調査紀行』 |
| | 12月 | 瀬戸 玲子 | 『新疆ウイグル自治区見聞録』 |
| 1994年 | 5月 | 長島 弘道 | 『マニラ・ケソン9日間』 |
| | 12月 | 高木 正 | 『アパルトヘイト後の南アフリカ共和国の生活』 |
| 1995年 | 6月 | 東郷 正美 | 『1995年兵庫県南部地震について：現地における地形・地質調査にもとづいて』 |
| | 12月 | 長沢 利明 | 『台湾の少数民族』 |
| 1996年 | 6月 | 三枝 茂 | 『第37次南極地域観測夏隊のフィールドワーク：とくに地理学の調査を中心に』 |
| | 12月 | 八久保厚志 | 『工業地理と地域産業政策』 |
| 1997年 | 5月 | 岡島 建 | 『近代都市における河川水利の役割』 |
| | 12月 | 門村 浩 | 『アフリカ・サヘル地方の砂漠化』 |

<巡検> (1990年以降について。氏名は案内・引率者)

- | | | | |
|-------|----|-------------------------------------|-------------|
| 1990年 | 2月 | 沼津市の気温調査 | 野口 泰生・長谷川 均 |
| | 7月 | 下町巡検 | 福島 義和 |
| | 9月 | 川場村、過疎山村の活性化の現状と問題点 | 長島 弘道 |
| 1991年 | 2月 | 神奈川県三浦半島南部の地形と地質 | 長谷川 均 |
| | 6月 | 八王子市南大沢地区巡検
(ニュータウンの現状と今後のあるべき姿) | 福島 義和 |
| | 9月 | 日立市鉾山の存在した町とその後の都市開発 | 長島 弘道 |
| 1992年 | 2月 | 神奈川県三浦半島南部の地形と地質 | 長谷川 均、野口 泰生 |
| | 5月 | 大磯丘陵の地形と火山灰 | 高野 繁昭、長谷川 均 |
| | 6月 | 佐原市と伊能忠敬記念館 | 瀬戸 玲子 |

	9月	山口・萩・津和野の歴史と都市イメージ	内田 順文
1993年	3月	伊豆大島と三原山の火山地形を訪ねて	長谷川 均、内田 順文
	9月	福島県会津田島の地形と植生	長谷川 均、内田 順文
1994年	2月	筑波研究学園都市研究施設見学	瀬戸 玲子
	6月	江戸・東京の不思議空間	内田 順文
	9月	釜石市の活性化	長島 弘道
1995年	6月	首都圏巡検：明治初期の横浜の発展	内田 順文
	9月	長野県高ボッチ・鉢伏山の地形と植生	野口 泰生
1996年			
	9月	静岡県沼津市の土地条件と工業立地	瀬戸 玲子
1997年	3月	江戸・東京の不思議空間 Part 2：墨東地域	内田 順文
	8-9月	沖縄県石垣島白保の海岸地形	長谷川 均

<研究発表> (1990年以降について)

1990年12月

- 辻 直樹 (3年) 『塩釜市における蒲鉾生産の現状と問題点』
- 小淵禎男 (3年) 『大和郡山市における金魚養殖』
- 石崎章治 (3年) 『下伊那郡松川町における和なし栽培の特色とその経営構造』
- 長久保達郎 (3年) 『霧ヶ峰高原における微地形の影響による風の分布について』
- 三枝 茂 (3年) 『千葉県養老川流域の河岸段丘地形について』

1991年12月

- 佐藤浩士 (3年) 『諏訪湖流入河川の水質分布について』
- 谷口雄介・七沢智慧 (3年) 『千葉県養老川中流における河岸段丘の分布と構成物』
- 海老沢尚 (3年) 『甲府盆地南部の水害と対策』
- 添田智則 (3年) 『長野県長野市の人口の転出転入から見た他県との関わりについて』
- 野本幸男 (3年) 『浜松市庄内地区における花き生産の発展』

1992年12月

- 石崎 裕 (3年) 『信濃川中流域で見られる河岸段丘とその堆積物について』
- 高橋 誠 (3年) 『河口湖北西岸連続入り江における砂群落の分布形成要因』
- 野田治夫 (3年) 『鳥屋野瀧における都市化と水質汚濁の関係』
- 松林 亮 (3年) 『名古屋市久屋大通り・広小路通りにおける景観の統一性とその特徴』
- 伊藤恵喜 (3年) 『長野市中心部の時間貸駐車場の現状と変遷』

1993年12月

- 大鹿公德 (3年) 『岐阜県高山市における都市の形態と昇温率との関係』
- 石川太郎 (3年) 『福島県会津郡田島町赤穂原川流域の土地利用と水質の関係』
- 田村寛子 (3年) 『地方都市におけるコンビニエンスストアの現状とその周辺のコニビエンスストアの配送ルートについて』
- 村松篤盛 (3年) 『京都市内における京都弁の使用頻度および地域的差異について』
- 安達達志 (3年) 『神戸市におけるスポーツ政策：スポーツ政策による都市構造の変化』

1994年12月

- 白井英明 (3年) 『埼玉県秩父市におけるヒートアイランドの発生要因について』
- 白男川里子 (3年) 『会津田島におけるリモートセンシングデータと分光反射特性の整合性について』
- 窪木俊夫 (3年) 『長野市における傾斜地の住宅利用について』
- 石井崇伸 (3年) 『手描き地図からみた小学生の知覚環境の発達』

榊原清史（3年） 『新潟市街地における都市地下空間利用 電線類の地中化・万代一丁目地下歩道を例として』

1995年12月

- 萩原 勇（3年） 『仙台駅東地区の再開発』
関口 貴則（3年） 『小名浜における海霧の増加と気温・海水温との関係について』
本田 慎吾（3年） 『前橋市郊外における「ド・サイド」店の立地・性格』
深代 雅明（3年） 『長野県伊那盆地中部域における地形形成：テラ層から見た地形分類』
瀧澤 賢治（3年） 『北海道観光ルート上の札幌市における観光拠点生による純観光地性評価の相対的低下』

1996年12月

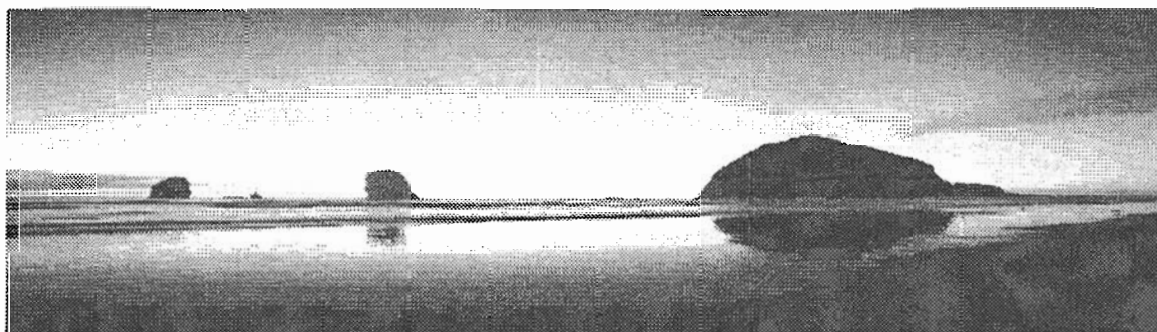
- 佐々木 徹（3年） 『山梨県白根町の直売と観光農業について』
塩沢 隆幸（3年） 『福島県福島市におけるヒートアイランドの発生とその要因について』
後藤 和美（3年） 『福島県福島市における高齢者社会福祉施設の分布』
長竹直樹・志村鋼志・稲見悟志（3年） 『六甲山地断層系の観察による六甲山地の地形形成の考察』
金井 宏（3年） 『兵庫県芦屋市における鉄道利用について 阪急・JR・阪神を比較して』

1997年12月

- 小笠原 洋介（3年） 『豊田市の発展とトヨタ自動車』
吉田 正光（3年） 『千葉県銚子市における気候的特性』
若井 里江子（3年） 『“沖縄県民”と“観光客”の沖縄に対するメンタル・マップの違いについて』
金子 滋幸（3年） 『道東地方で観察されたさまざまな地形』
小棚木いずみ（3年） 『大阪府における新しい水辺空間づくり—ため池オアシス構想を例に—』
庄田 哲夫（3年） 『仙台市泉区の都市公園の整備と都市開発—七北田公園と泉パークタウン紫山地区を例に—』

1998年12月

- 小林 和幸（3年） 『会津若松市における商店街の立地—神明通り商店街と本町中央商店街を比較して—』
佐藤 久美子（3年） 『茨城県鹿島郡旭村における海岸部と内陸部の気温差について』
伊藤 嘉彦（3年） 『岩手県内各都市の観光イメージについて』
加藤 譲（3年） 『房総半島南端平磯における完新世地形について—海岸段丘と海岸砂丘の特徴—』
大高 寛幸（3年） 『新潟市におけるコンビニエンスストアの立地展開』
小山 裕（3年） 『伊豆半島天城山のブナ林の構造と動体』



資格・就職

<資格について>

文学部では在籍期間中124単位を修得すれば、学士の称号が得られます。地理学専攻で、所定の単位を修得すれば、中学の「社会」と高等学校の「地歴」の免許を取得することができます。

また、測量学や測量実習など、所定の単位を修得することにより、「測量士補」の資格を取れる道がひらかれています。その他にも希望すれば、博物館学芸員、学校図書館司書教諭、社会教育主事などの資格も取れる道がひらかれています。

文学部地理学専攻の学生が取得できる資格を下に示しました。履修しなければならぬ科目等は、履修要項を参照してください。

多くの学生が教職・博物館学芸員・図書館司書・測量士補などの資格を取得しますが、特に測量士補は近年取得希望者が急増しています。

- ・ 中学の「社会」免許
- ・ 高等学校の「地理歴史科」免許
- ・ 測量士補
- ・ 博物館学芸員
- ・ 社会教育主事
- ・ 図書館司書・学校図書館司書教諭

<就職について>

本学には就職センターが設置されてお

り、学生が卒業後の生涯設計の一環として希望就職先や職種などについて、外部情報を収集し求人側の申し込みを受けて就職情報として流しています。また、学生はこれらの情報を閲覧したり、就職先の斡旋を受けたりすることができます。

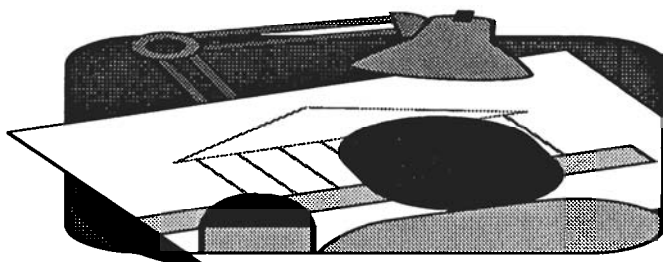
地理学専攻の卒業生の最近の就職状況は、多方面にわたっています。この一、二年で見ると、地理の専門知識が直接生かせる分野として、地図情報・出版、観光・運輸、調査・コンサルティング、公務員などが目立ちます。具体的には、地図情報・制作・出版部門での技術営業やGIS・RSソフトオペレーティング、リモートセンシング関連部門でのシステム開発・コンピュータオペレーション・データ管理、運輸・観光部門での企画・営業・添乗業務、コンサルティング・エンジニアリング部門での環境アセスメント・測量および現地調査・設計管理、それに自治体の行政部門です。また、毎年少数ですが他大学の大学院へも進学しています。

ここに載せるデータは、1992年から1997年の卒業生から教室に報告された就職先です。業種、職種が特定できないものも多いので、就職内定先の名称を掲載しました（重複しているものは削除しました）。

* * * *

(株)ケーヨー・(株)イトーヨーカ堂・吉川紙商事(株)・(株)オオバ・若林株式会社 ・富士通オアシス(株)・富士工・安田町役場・日立システムエンジニアリング・ナチュラルハウス ・四国紙商事KK・相模鉄建 ・凸版印刷(株)・ダイヤモンドコンピュータサービス・ジーンズメイト ・町田市役所・(株)富島建設・リバースチール・国土情報開発KK・東武トラベル(株)・昭和(株)・ミロク情報サービス・(株)三菱電気ビルテクノサービス・荏原インフィルコ(株)・エームサービス(株)・オークサ本社・日産コンピュータテクノロジー・(株)ダイエーセントラルオペレーションサービス・同栄信用金庫・住友不動産ホーム・東急観光・福島市振興公社・(株)はせがわ・海上自衛隊・忠実屋・春日部市役所・三交クリエイティブライフ・東京三菱ふそう・I・P・21・島忠・日本生命・トヨタ中古自動車販売・九州ジャスコ・千葉測器・興和・大和試錘・日産サニー湘南・山本商会・太陽信用金庫・山久山田・パリスパン店・JA黒磯・丸長産業・遠藤科学・中山機工・飯島工業・千葉トヨタ自動車・東洋シャッター・ホリウチコーポレーション・大和探査技術・児玉化学工業 ・日本マクドナル

ド・第一建設工業・横浜エレベータ・(株)タイトー・(株)ピープル・三協フロンティア・キハラ・コナミ・武蔵村山市役所・シンエイアームズ・東京消防庁・前橋市役所・釧路町役場・(株)名給・トヨタ東京オート・小田原消防署・新潟トヨペット・日本ケンタッキーフライドチキン・大日本製缶・開発電気・関東鉄道・YAMAMURA・都留信用金庫・サンドラッグ・宝フューチャーズ・大和フューチャーズ・(株)岸勝・喬木村役場・千葉測器・東京郵政局・山文産業・JA川崎市多摩・アイリスメガネ・千葉県住宅供給公社・共同測量社・日本旅行・丸進商会・小田急バス・(株)キャッツ・ドライバースタンド・ディーエム情報システム・日立オートシステムズ・バーバーイワサ・千葉県観光公社・日本橋大増・日本中央旅行・浜名湖養魚漁業協同組合・東邦レマック・日新ハウジング・新潟中央銀行・テンジンヤ・日昇商会・防衛庁航空自衛隊・センチュリーホーム・泉商会・黒岩測量設計事務所・セントラル・コンピュータ・サービス・ミサワホーム・大和ハウス工業・アイ産業・日本測地設計・東急アメックス・セレスポ東京ビジネスサービス、エプソンコーワ、サン電子、フィケーエンジニアリング、小田急百貨店、全日本空輸、日本コンピュータコンサルタント、幸伸、ユザワヤ、吉田石油、郵政省(x2)、サトームセン、オーク、群馬リコー、エム・エス・ピー、立川バス、ダイナック、光村印刷、中庭測量コンサルタント、日産プリンス名古屋販売、ダックピブレ、前田屋外美術、テイツー、リモートセンシング技術センター、長崎屋、東海フォレスト、国土情報開発、信濃技研、丸和運輸機関、メガネトップ、埼玉三菱自動車販売、PCマーチャンダイズ、日本コンピュータテクノロジー、マツヤ、日本ブリタニカ、アクリーグ、ゼンリン、シンコーミュージック販売、読売インフォメーションサービス、JTB、広島トヨタ自動車、グリーンリバー、中島ソフトエンジニアリング、デニーズジャパン、浅田飴、経営情報サービス、泉工医科工業、ジェイ・ビー、マインズハウス



就職、進学へのアドバイス

(卒業年度順)

社会科教員をめざす人へ 釜堀 昌弘
(1990年3月卒業福岡県甘木市立甘木
中学校教諭)

<職業選択の理由から>

なぜ今の職業に就いたかというところから社会科、特に地理が好きだったというのが一番の理由です。もともと第一希望は大学院への進学でしたが、自分は長男で親の希望もあり、さんざん考えたあげく地元就職に決めました。

さて、田舎に帰ることに決めた後最初に希望したのは高校教師でした。高校ならば自分の専門教科(社会の地理など)を教えることができると思ったからです。しかしそう甘いものでもなく、いろいろ調べてみると専門教科別に採用するため、地理の場合県全体で多い年で5人、少ない年では採用無しでした。これでは自分が就職する時にどうなるか分からず、結局県全体で20~30人の採用がある中学校社会科に決めました。

<就職するための準備>

とりあえず何か免許を取っておこうという軽い気持ちで教職を取っていたので、大学二年までは全く何もしていませんでした。しかし、3年になった頃自分の進路を決め、その頃から教員採用試験の勉強を始めました。まずやったのが、教職の雑誌の購入と通信教育でしたが、それまで教育心理や教育原理の講義を真面目に聞いていたわけでもなく、ほとんど分からず焦りました。そこでやり始めたのが、大学の書店で見かけた協同出版の本で、「教育原理」、「教育心理」、「教育史」、「教育法」、「中学社会の基礎演習」の5冊だけを何回も何回も繰り返しやりました(別に自分は協同出版のま

わし者ではない)。

さて試験についてですが、自分が受けたときは、最初にその問題量に圧倒されました。1次試験での教職教養などマークシートながら100分間で問題がB4の紙に14枚もありゆっくり考える暇もなく見直す暇もなかったのを覚えています。この他に、教科試験、小論文、作文、集団討議、水泳、個人面接などがあったと思います。

<アドバイス>

教職を取っている人は、4年になって教育実習に行ってから本気で教員になりたいと思う人が多いようですが、それから勉強をはじめてもまず試験(7月)には、間に合いません。勉強するのは、時期が早ければ早いほどいいと思います。そしてあれこれ手をつけず、自分が「これ!」と思ったものを何回も繰り返しやった方がいいと思います。それに教育実習では期間が短く、いいところしか見ていないと思います。自分も今年教育実習生を受け持ちましたが、教科指導が主で学級指導(生徒指導)は朝の会、帰りの会と学活でのレクレーションくらいしかさせていません。教育実習は短期間なので生徒の実態をつかんで家庭訪問をしたり、指導したりは出来ませんし、またそこまでは任せられません。

どんな職業についても辛いことはあるのです。教員になろうと思っている人はその理由をもう一度しっかりと考えてみてください。

<現在の職業について>

教員になる人は大体その教科が好きで教員でなる人が多いようですが、自分が覚えることと生徒に教えることは全く別物です。その教科を嫌いな生徒もいるし、それぞれの生徒の理解力も違うわけですから。

さて、教員になる前と、なってからですが、自分も身の回りに教員がいなかったせいもあり、夏休みや冬休みがあって中学の社会を教えるくらいそれ程大変でもないかなと、安易な気持ちをもっていました。しかし、それはとんでもない間違いでした。まず最初の年は、1年生所属で3組の担任、地理の授業を4クラス、部活動はテニス部女子の副顧問でした。また、初任者研修があり校外研修30回、校内研修60回と研修ノートの記録や提出物・レポートの提出などに追われました。はじめての担任で生徒（特に女子）ともめたり、授業では毎晩教材研究（板書計画や授業の進め方）したり、部活動は毎朝7:00から朝練があり日曜なども練習で、何回教員をやめようと思ったことかわかりません。そんなときは先輩教員に飲みにつれて行ってもらい、「とにかく3年間は頑張れ、今の生徒を卒業させてから考えろ」とよく言われました。

次の年は2年所属の8組担当、歴史の授業を4クラス、部活動はテニス部男子の顧問でした。2年目になるとどうにかクラスもまとめることができるようになり、修学旅行にも行きました（夜はほとんど眠ることもできず、昼は生徒と一緒に騒ぎ、あんなに修学旅行の引率が大変だとは思わなかった）。

現在は、3年所属の3組担当、公民の授業を4クラス、部活動はテニス部男子の顧問です。3年での一番大事な行事といえば高校入試ですが、親や生徒の希望と生徒の実力・・・頭の痛いものです。また、どうにか部活動の方も軌道に乗り、九州大会に出場することができ、団体と個人で3位になることができました。いい結果が残せるとそれまでの苦労が報われます。

ぐちゃばかりになってしまいましたが、遠足に行った時に生徒がお菓子を持ってきてくれたり、一緒に遊んだり、学校で

も「先生、先生」とにこにこしながら寄って来たり、悩み事を相談にこられると悪い気はしません。教員も結構楽しいなとやっと思えるようになった今日この頃です。

先輩教員からはよく「中学校の教員は3年間やって初めて時計の一回りだ」とか、「生徒を卒業させたとき一番、教師になってよかったと思う」と言われます。時計の一回りまであと少し、楽しみと寂しさの混じった妙な気分で初めての卒業式を待っています。

<将来の展望>

今は、海外日本人学校の教員になってみたいなという夢をもっています。結婚していることが条件で、一度行くと最低2年は帰ってこれないそうですが、是非行ってみたいと思っています。

自然科学で考古学の謎に挑む

高橋 敦

（1990年3月卒業、パリノ・サーヴェイ株式会社）

私は、平成2年3月に地理学教室を卒業し、現在パリノ・サーヴェイという会社の、調査研究部考古学研究室に勤務しています。考古学と聞いて、地理学教室なのに変だなと思う人もいるでしょう。一番驚いているのは、私自身です。大学時代は考古学とは全く無縁の生活をしていましたし、今でもそれほど考古学について詳しいわけではありません。会社に入って考古学をやることになるとは夢にも思いませんでした。それは、私の会社の他のスタッフについてもいえることです。ほとんどの社員は、会社に入るまで考古学というものを全く知らなかったといっただいでしょう。

考古学や歴史に興味の無い人も、青森県三内丸山遺跡の名前は、一度くらいT

Vや雑誌で見たり聞いたりしたことがあると思います。三内丸山遺跡では、実に多種多様な自然科学分析が行われています。例えば、DNA分析や土の中に含まれていた花粉化石を調べて、クリの栽培が指摘されたというニュースは記憶に新しいところですよ。遺跡の発掘調査には、ありとあらゆる自然科学技術が投入されていて、最先端技術の博覧会と言っても過言ではないでしょう。私のいる会社も、こうした考古学や地質学の分野で、自然科学分析を応用して、目では見つけられない過去の事象を明らかにしていくことを業務としています。こうした会社は全国に多数あるのですが、その中で私のいる会社がとくに異彩を放っているのは、植物化石（花粉・木材・種実・葉など）の鑑定を中心としていることにあります。私はその中で、木材の組織を顕微鏡で観察して種類を鑑定する仕事を担当しています。4～5年前に群馬県の某縄文時代の遺跡でクリの木柱列が出土して大騒ぎになったことがあります、その時に柱をクリと鑑定したのが私です。

私が、そもそも今の会社に入るきっかけとなったのは卒業論文です。私のテーマは、今から13万年前、今より少し暖かくて、世田谷校舎のすぐ近くまで海だった時代の堆積物に含まれる花粉化石を観察して、その当時の植生を復元するというものでした。地理学ではないと思う人もいるかもしれませんが、今私たちが生きているこの時代も含めた第四紀の研究は、立派に地理学です。卒論が花粉化石なのに、今見ているのが木材の訳は、単に会社の都合でしかありませんが、私は木材に変わってよかったと思っています。私の見ている木材のほとんどは、昔の人が何かに利用した、いわゆる木製品とか加工材と呼ばれているものです。櫛のように小さいものもあれば、建物の柱のように大きなものまであります。こう

した木材を調べることで、昔の人達の木材の使い分けの実態や、その時代差・地域差等を明らかにできます。木材を鑑定するのが仕事と言いましたが、実際には鑑定した結果を解析することの方がメインと言ってよいでしょう。何千年も前の人が使っていた木材を手で触り、その種類を鑑定しながら遠い昔に思いを馳せる。地理を卒業した私にとっては、非常に魅力あるテーマです。私の仕事が古代の謎を解く鍵になる、そう考えただけでワクワクしてきています。木材の解析は、花粉化石とも密接な関係があるので、大学の時の経験もきちんと生きています。

皆さんは地理学の面白さは何処にあると思いますか？。私は、同じ教室の中に自然科学と人文科学が互いに協力し合いながら存在しているところだと思います。何事も一方向から見ただけでは、その全容を知ることにはできません。地理学は、自然・人文の枠を越えて、いろいろな角度から一つの事柄を見つめることができます。数少ない学問だと思います。でも、これは非常に重要なことなのです。私は、今でも結果の解析に文献史学の資料などを積極的に取り入れています。このような解析は当たり前だと思っていたのですが、実は地理学で習った見方・考え方が大きく影響しているのだと最近思うようになりました。

大学とは知識を得る場所ではなく、それぞれの学問の見方・考え方・技法を学ぶ場所であると、そして地理学には独特の見方・考え方があると、昔何かの本に書いてあったことを覚えています。本当にその通りだと思います。何よりも大事なことは、物事は上辺ではなく、根底から理解することだと思います。そのためには、自分のやっていることを好きになることが必要です。人は、好きであることに対してはどん欲になれます。そうすれば、技術とか知識は自然と上達してい

くものです。よく、勉強はできないけど、趣味に関しては一流という人がいるでしょう、あれと同じ事です。社会に出たからは、型どおりの勉強ができることなどは何の役にも立ちません。私のいる会社でも、勉強できる人よりも熱中できる人を求めています。

物事を根底から理解するという事は、全ての職種に共通して重要なことだと、私は思います。そして、何事も楽しんで人の勝ちです。是非4年間の地理学を楽しく学び、物事を根底から理解するという事を身につけて下さい。そうすれば、自ずと道は開けてくるはずですよ。

地図屋さんのお仕事について 柴田 剛
(1991年3月卒業、内外地図株式会社)

私の職場は、「本の町」お茶の水にあります。会社名は、内外地図株式会社です。営業部に所属しています。会社の業務内容は、大きく次の3種類に分ける事が出来ます。

- 1：お店での地図と関連商品の販売
- 2：各種地図の編集印刷
- 3：コンピュータを使用した画像処理・地図データ入力

この中で私の仕事内容は、1～3までの全てに関わっています。特に大きな割合を占めるのは、2の地図の編集印刷になります。具体的には、お客様と直接お話をしながら制作方針や作業方法、価格等を考え決定していきます。制作方針が決定したら、実作業を行う人に細かな作業指示を出して作業を進めていきます。また、完成までの作業進行の管理も行います。完成時には指示通り（最初のイメージ通り）に出来たかを確認し、成果品を収めて仕事の完了となります（ここまで来るとほっとする）。自分では製図をしたり直接作業をする事はありません。

私の職場には、国土館の地理卒業の社員は私の他に4名います。そのうちの2

名が幕張の工場でコンピュータを使ってデータ作成を行っています。あとのふたりは、本社勤務で営業部に所属しています。

将来的には、グラフィックデザインとして地図をとらえて、どんな表現方法が良いのか考えていく事がひとつの希望でもあるのですが、GIS（地理情報システム）の関係のデータ作成や、その利活用を考えていく事ももうひとつの希望でもあります。どちらも私にとっては、興味深い事柄であることには変わりありません。

学生時代の事ですが、卒業年は1991年です。ゼミは、長谷川先生のゼミに所属していました。当時、長谷川先生は独身でして、そのためかゼミ終了後は決まってゼミ生数名（ゼミには、5名程度しか所属学生がいなかった）を従えて養老の瀧で焼酎を飲んでデータものでした。私も長谷川先生には、お世話になったひとりであります。

現在の仕事に就くにあたって、学生時代の勉強が仕事に役立ったことは具体的にはいえませんが、地図を持って出歩いたり、地図の中に埋もれた情報を読み出したりして日ごろから地図に接する機会が多かったので、すんなりこの世界に入る事が出来ました。ただ、近頃は、コンピュータを勉強に利用する事が増えたので、画像データを取り扱えるとそれなりに仕事に役立つと思います。

最後に、就職活動をして会社選びをするときですが、待遇や会社の知名度で選ぶのもひとつの方法でしょう。しかし自分のやりたい事で職業を選んでいくのも大切であると思います。学生のうちは自分が何をやってみたいのか、じっくり探してみてください。そうすれば、きっと素敵な「仕事」が見つかるはずですよ。

良い出会いと元気な好奇心

齋藤 出

(1991年度卒業，東北大学大学院理学研究科博士後期課程在学中)

<今，やっていること>

たいやき君の歌に出てくる『ももいろサンゴ』ではなく，1998年夏にマスコミを販わせた白化現象を起こした造礁サンゴの骨格を使って過去の環境を復元することが小生の研究テーマです。

平たくいえば，サンゴが記録している日記帳をひもといて，人間の言葉に翻訳し，環境資料として整理していこうと考えております。

具体的には海水の水温や塩分の変動，それに伴う気温や降水量，日射量などをサンゴから復元することができます。また，エルニーニョ現象やモンスーン変動などの地球規模の環境変動のデータとして，活用することができます。

東北大学に在学しながら，筑波にある地質調査所に居候しております。そこでは，サンゴ礁から持ち帰った試料を用いてさまざまな化学的分析を行いつつ，研究結果をまとめ，博士論文を完成させるために日々精進しております。

<国土館大学在学時代>

都立南多摩高校を卒業後，2年間ぶらぶらしてから1988年に国土館大学の門をたたきました。高校時代に南極に対して興味を抱き，当時，極地研究所に勤務されていた吉田栄夫先生（現在：立正大学）に出会い，影響を受けました。どうすれば，南極に行けるのか？と考え，吉田先生が地形の先生だったことから地理関係の大学に入学したわけです。

ところが，いざ入学してみると，南極がものすごく遠いものであることが次第に明らかになってきました。要するに非常に甘い考えをしていたわけです。そこ

で，出会ったのが，長谷川均先生です。先生は1989年2月に小生をサンゴ礁の世界にいざなってくれました。後述しますが，目崎茂和先生（三重大学）に出会うのもそのころです。サンゴ礁の美しさに魅了され，毎年，沖縄に通いました。沖縄に行くためにアルバイトもしました。当時は航空券の割引運賃などもなく，旅費だけでも相当な額になりましたが，そのころ投資したものが，自分の財産になっていることが最近ようやくわかってきました。

卒業論文は沖縄のサンゴを対象にして，現在の研究の基礎的な研究を行っておりました。先輩の調査の手伝いをしている最中，海岸で偶然に見つけた縞模様を持つサンゴの石ころに好奇心を持ったことが発端です。縞模様のサンゴを手に取り，小生の疑問にこたえてくれたのが，現在の指導教官である中森亨先生（東北大学）です。

多くの先生方に出会い，指導を受け，なんとか1992年3月に国土館大学を卒業することができましたし，大学から柴田徳次郎賞も頂くこともできました。

<進学動機>

さて，実を申しますと，大学院に進学することには消極的でした。今では考えられませんが，小生の卒業するころはバブル経済の終了間際で，就職しようと思えばいくらでも就職できたのです。選択肢はたくさんありました。

ところが，就職活動もせず，アルバイトをしながら，サンゴの骨格の研究に没頭するようになってしまい，就職の時期を逸してしまいました。

ちょうどそこに，目崎先生から大学院へ進学しないかと声をかけていただいたのでした。何でも三重大学に人文系の大学院が初めてできるから，できるだけ人を集めたいらしい。それに，サンゴ礁に

行くことが続けられる。まだまだ、楽しいことがたくさんあるだろうし、何とかなるだろうと考え、安易に決めてしまいました。入試はかなり難しく、ショックを受けたものの、何とか合格することができ、大学院生としての生活が始まりました。

〈大学院生の生活〉

三重大学でもサンゴの骨格の研究を行っていました。しかし、周囲には考古学や社会学、経済学、日本文学、中国文学、美術史、科学史など、さまざまな研究を行っている先生方や大学院生がいて、多くの刺激を受けました。特に、小生の同級生は大学院の第一期生ということもあり、あくの強い人がたくさんいて、非常に楽しい時期を過ごすことができました。それに、初めての一人暮らしだったこともあり、かなり遊んだのも事実です。

その後、前述の中森先生の下で、サンゴ骨格についての研究をあいかわず続けようと思い、1994年4月、東北大学大学院理学研究科博士課程後期に編入学しました。地質学・古生物学の研究室なので、また毛色の違う人たちと出会うことができました。小生も海洋調査船に手伝いとして乗り込むことができ、2ヶ月間太平洋を航海し、深海底の堆積物の研究や海水の動態の研究など海洋に関する幅広い研究に触れることができました。

海洋調査船において、地質調査所の川幡穂高先生に出会い、先生の計らいで現在のような居候の研究生生活が始まりました。サンゴの骨格の化学的分析の手ほどきを受けることができ、研究が飛躍的に進みました。

居候とはいえ、1997年度からは東北大学と地質調査所との間に連携大学院制度が結ばれ、居候が制度上正式に認められたものになりました。そこで筑波研究学園都市にある地質調査所において大

学院生としての研究生生活のほとんどを送ることも可能になりました。他の大学や研究所の間にもそれぞれに同様の制度があり、大学院生として大学以外においても研究できる機会が増えています。大学院に進学し、大学時代では考えにも及ばないほどスケールの大きな人々に出会うことができ、良い経験をしております。好奇心旺盛な人には刺激的な世界ではないかと思えます。

〈進学のアドバイス〉

小生が大学院に入学したころは、良い先生との出会いと情熱があれば何とか大学院に潜り込める時代だったかも知れませんが、最近はそうではありません。大学院のあり方の見直しが進み、進学希望する人が増える傾向が強くありますので、入試も厳しくなってきました。不況の影響もあるかも知れませんが、就職できないならば大学院にでも行こうかと考える人もいます。

そうやって入学しても、大学院修了後はバラ色かということでもありません。就職環境は厳しいし、常に不安定要素に苛まされ、どうなるか見当もつきません。したがって、安易に進学することは進めません。博士課程を修了した後は、大学卒業時よりも社会への窓は小さいことを実感しております。

それでも、旺盛な好奇心と良い人との出会いが結びついたとき、先に進むことができると思えますので、その気がある人はあきらめずにチャレンジしていただきたいと思えます。



「知りたいこと」の探求

佐々木明彦

(1992年度卒業、東北大学大学院博士課程在籍)

現在わたしは「東北日本の多雪山地における最終氷期以降の地形景観発達」というテーマで研究を進めています。この研究では、多雪山地に特徴的な土壌の分布と生成史、およびそれらの土壌に記録されている古植生の情報、それらの土壌が分布する場であるところの地形の発達史、などを解明することに主眼をおいています。そして、それらの成果を総合的に検討して上記のテーマを考察しようと企てています。卒論で取り組んだ研究が、結果的に現在の研究の骨組となっているのですが、もちろん卒論の執筆時やゼミの選択時に今と同じ課題設定ができていたわけではありません。しかしながら、私の「知りたいこと」は今もその時から変わっていません。

私は山登りが好きで、とりわけ高校時代は出身地である東北地方の山をよく登っていました。そして、高山植物の緑とひととき映える白い残雪（本当は汚れています）を見て、「その残雪景観がいつの時代からそこにあるのか科学的に知りたい」と思うようになっていました。もちろん漠然とですが。そのためには、大学で地学や地理学を専攻して、そういうテーマで卒論を書けばいいのだと、やはり漠然とっていました。結果として希望通り地理学専攻の学生となったわけですが、ゼミを決める3年生のはじめになって、さて、漠然と考えている「知りたいこと」を卒論のテーマにするにはどうしたらいいのだろうか？私の「知りたいこと」は地形学の範疇に入ると思ったので、主に地形学的なテーマで卒論を書く学生が集まる長谷川ゼミに所属しました。

ゼミでは、卒論のテーマを決める過程

で、論文を読みその内容を紹介することがあります。私はそこで「残雪」と「地形」との係わりに関するいくつかの論文を読み、卒論ではその中の一つの調査方法をまねてみようと考えました。そして三国山地の平標山を調査地域に選定し、その山森林限界以高に分布する土壌が、どのような性質

をもっているか、いつの時代からでき始めたのか、ということ进行调查し、それらにもとづいて、約15,000年前から現在までに平標山の土壌生成環境がどう変化してきたかを考察しました。しかしながら「知りたいこと」はその考察の背景に見え隠れしただけでした。卒論に限らず、論文には論理が必要です。証拠が整ってない以上、「知りたいこと」を卒論のメインテーマに据えることはできませんでした。文献購読、卒論の調査を通じて、自分の「知りたいこと」の具体像は次第に見え始めていましたが、それはファンタジー以外のなにものでもありません。もっとたくさんの証拠を集め、「知りたいこと」を論文に表現することによって、自分の目標は完結すると思えました。そこで、研究を続けるために大学院修士課程への進学を決意しました。大学院に進みたいと思うようになったのは卒論の調査を始めた夏頃でしたが、最終的に決めたのは卒論を提出し終えた12月の中頃でした。進学先は、高山地形の研究が盛んな明治大学に決めました。もちろん、進学するためには試験にパスしなくてはなりません。

試験ではおおむね地理に関する知識と英語力を問われるので、とくに英語の勉強には死にものぐるいで取り組みました。それまでの人生の中でそれほど勉強したことはなかったと思うくらいにです。

ところで、私は4年生の春から、都内の大学で月に一回開催されている研究会に出ていました。それは「寒冷地形談話

会」という研究会で、高緯度地域や高山地域において主に地形学的な研究を進めている先生や大学院生の方々が意見の交換をする場となっていました。当時の非常勤講師の先生の勧めがきっかけで参加するようになりました。その研究会の第一印象は、恐くて身の置き場もないところだなぁ、でした。しかし、その研究会では常に新鮮な話を聞くことができ、自分の視野を広めることができました。また、自分の「知りたいこと」が研究としての外れでないことを、そこで知り合った他大学の大学院生の方々に教えられ、勇気づけられました。これらも進学して研究を続けようとする私の気持ちに追い風となりました。明治大学大学院に進学してからもうやるべきことはひとつでした。「知りたいこと」の探究です。しかし、それなりに知識がつくにつれ、「知りたいこと」を明らかにするために必要な「フレーム」は、非常に幅の広いものであることがわかってきました。修士課程の2年間だけでそれらを調査するのは困難であったので、修士論文を「知りたいこと」を考察するための「積み重ね」の一つとして割り切り、多雪山地の地形の発達史を考察しました。修士課程を終えた私は、現在の大学院に進学し、さらなる探究を目指しているわけですが、結局「知りたいこと」はこれから一生かかって明らかにしていくテーマとなりそうです。研究に終わりはありません。

最後に一言。「知りたいこと」を探究してきた結果、私は社会から見れば「落ちこぼれ」になってしまいました。高校や大学の同級生たちが、それなりの給料を貰うようになったり、結婚したりと、自分の生活を築いているのに、私は未だに学生です。将来はどこかの大学に何とか教員として就職したいと思っていますが、大学教員への道は非常に厳しいのが現状です。希望通りになれるかどうかも

わかりませんし、将来のことは不安でいっぱいです。また、生活を維持するためには、研究の合間にアルバイトをして生活費をつくらなければなりません。はつきりいって、今の生活には余裕などなく、本当に大変です。しかし、「知りたいこと」を探究する情熱があるかぎり、私はどんな困難に直面しても大丈夫だと確信しています。「知りたいこと」の探究だけで今も突っ走っている私から皆さんに伝えることはただ一つ。情熱を傾けられる「何か」をこれから4年の間に見つけてください。それはきっと皆さんの未来において精神的な支えとなるはずですよ。ご健闘をお祈りします。

はたらくおにいさん

杉下 創史

(1996年3月卒業、共和コンサルタント(株))

<ごあいさつ>

新入生の皆さん入学おめでとう。あー懐かしいね、君達の頃が。これから4年間どんな奴と知り合い、どのように過ごしていくのか、期待していたな。この4年間は、一番自由気ままな時間で、自分の意志さえあれば何でも出来た(親は泣いてた)頃だったと思う

(23の若造が何を言ってる!)。いい友人や良い人に恵まれ、たくさんの出来事があった。あっそうそう素晴らしい先生方にも恵まれ、自分にとって満足満足と思える時期だった。だから、みんなも悔いの無いように過ごしてもらえればと思う。

そんな「第3体育館」と「第4体育館」の区別の付かないような君達に、今から卒業してからのことを考えることは、まだ早いと思う。今まで生きてきた時間の何倍も、過ごしていかなければいけないので、

重要なことだと思う。みんなも口に出さないが、こんなことしたいということがあると思う。今はそれでいいと思う。私は、地面をいじくるような仕事をしたかった。だから、測量や街づくり、地図制作の等の仕事を希望していた。果たして、これらが地理的なお仕事かどうかは解らないが、参考になればということで話してみたい。でも私はみんなと同じ一年坊主だけだ。

<こんなお仕事>

私は今、埼玉にある建設コンサルタントの会社に勤務している。入って半年は都市開発部で、区画整理のお仕事（お手伝い）をしていたが、秋から設計部へ異動した。設計部ということで周りはみんな土木屋さんばかり、地理屋さんなどいるはずもない。高校で数学と物理を捨てた男が何で？と自分に問いただすのであった。おまけに専門用語ばかりで言葉が解らず、"I beg your pardon?"とまるで大陸に放たれた、猿岩石のようであった。でも、設計に春から居た同期も私と同じような状態だったので、大丈夫だと思っていたし、すぐ慣れたけど。でも、大学1年の時買った関数電卓に、こんなにお世話になるとは思っていなかった。

こんな関数電卓にお世話になっている人は、大学時代の友人にも結構いる。鉈をもって藪を開いて測量している、長野の女の子（防寒・防虫の女王）、太平洋の荒波にもまれて汀線測量している奴（残業王）、蛇と格闘しながら生物調査している奴などなど。結構みんな頑張っている。皆さんは仕事をどういう風にイメージしている。TVドラマのようなオフィスでバリバリ働くとか、明るいお店でいらっしゃいませーとかな？ 私の周りにはこういう人は殆どいなく、みんな現場（アウトドア）が多い。私は今、週1回

程度現場に調査に行くのだが、少ない方である。

<現場調査>

いま、私が携わっている仕事は、高速道路の高架橋の下を走っている、一般道の道路環境を良くしようというものである。この一環で、高速道の桁下（裏側）に、騒音低減化させる吸音板を取り付けるための調査で、照明や標識などの障害物の有無の調査をしている。簡単に言えば、橋桁と照明灯やらの間隔を調べているのである。下から長い棒を伸ばして計ったり、コンクリートの橋脚の目から推測したりしている。さてその現場は、毎週区間を区切り、調査をしているのだが、高速の下の交通量の多い国道で、更に両側には道路を包むように遮音壁が建っている。とても空気が悪いところで、一日中もやっており、顔を拭くとタオルは真っ黒になってしまう。おまけに冬のこの時期は寒く、風も強く、すぐ日が暮れる。ところで、普段私たちが使う道路の標識の大きさや文字のサイズ、白線の太さ、照明灯の大きさなんて気にしたことあるかな。そんな普通の人気が気にしない事について、ものすごく気にする仕事である。余談であるが、設計全般がそうで、道路の舗装一つとっても、交通量や使用状態を考慮して、細かく計算されているのである。

そんな現場だけでも、屋内で一日中パソコンとにらめっこしているよりもずっといいものである。気分転換にもなるし、昼休みに車の中でお昼寝することは、とても気持ちがよくてやめられない。これは、前述の同業者みんなが言っている。

こうして調査の結果を、自分でCADを駆使（苦使）して図面を作り、報告書を作成して発注者に説明して納品するのだ。上司にいくらか手伝ってもらっているものの、納品するとホッとする。でも、

何日か後に発注者から電話なんかくると、ちょっとドキッとしてしまう。仕事をして行くと責任が課されるので、しっかりやらねばと思う。

<これから>

仕事は、まだまだ未熟で設計の専門について、全然解らない。仕事に就いてからの方が勉強に追われている気がする。専門性を売って仕事をしていくこの仕事なので、もっともっと勉強していきたいと思う。でも興味のある分野なので、苦にはならないかなと考えている（そんなに甘くないけど）。

<さいごに>

というわけで簡単に仕事を紹介した。あまり参考にならなかつたろう。地理の学生があこがれる仕事は個人個人違うと思うが、とにかく、自分の希望するものが自分のあこがれた仕事だと思う。そのためには、4年間を視野を広くしてほしいと思う。金を稼ぐだけのバイトではなくて、経験値になるようなバイトを試してみるとか。最後にそれと個人的な意見だが、簡単に「都会だ」「田舎だ」と決めつけるような、地理屋さんにはならなくておくれ。それでは、君達の4年間のはじまりはじまりー。

<付録1>

96～98年度の卒業論文

<96年度卒業論文>

- 1 二階堂順子 福島県相馬郡飯舘村における農産物を中心とした村づくり
- 2 富沢 昭文 高崎市中心部における都心機能の分布と集積過程
- 3 岡津 弘明 浜松市の中心商店街の業種構成と消費者の購買行動の変化
- 5 西崎 正典 東名高速横浜インターチェンジ`周辺におけるヒートアイランド`の実態と成因について
- 8 犬山 佳 相鉄いずみ野線 弥生台駅・緑園都市駅周辺の都市構造における共通点と相違点
- 10 本間健太郎 八王子市中心部における機能別の立地と変化について
- 11 小林 資 東京都江東区における内部河川の利用変化
- 12 佐藤健治郎 ランドサットTMデータの小地域内における土地被覆分類精度の検討
- 13 千野 岳 湖の資源管理:河口湖を例に
- 14 永井 郷支 都市商業地区における地下街の性格:川崎地下街アゼリアを事例として
- 15 青木 貴弘 高層建造物の立地・利用状況からみた都市中心部の地域差:新潟市中心部を事例として
- 16 小平 順一 栃木県足利市における伝統的繊維産業の変容について
- 18 杉山 敦 心象風景を考慮した景観形成計画に関する研究:静岡県清水市の小中学校校歌詞からの考察
- 19 植田 陽彦 伊豆三宅島における過去11年間の海岸変化
- 20 坂路 具嗣 大都市における大規模小売店舗の立地動向:千葉市を例に
- 21 東方田正平 広島湾北部における海洋汚染について
- 22 合田 清通 神奈川県厚木市における中心市街地と郊外新市街地の土地利用変化
- 24 富岡 宣利 冬の季節風と屋敷林の配置との関係について:関東平野北部の農村地帯を例に
- 25 池田 明大 埼玉県北東部における新しい農業の役割
- 26 稲野辺裕人 茨城県つくば市東部における土地利用変化の分析
- 27 矢部 英二 茨城県北部常陸太田市において夏季から秋季のヒートアイランド現象について
- 30 塩田 隆一 公団住宅における建替事業の現状と課題:東京都葛飾区を事例として
- 31 天井澤暁裕 根室半島豊里におけるアースハンモックの形成環境

- 33 本田 慎吾 東京西郊における鉄道駅空間とその類型化:西武池袋線沿線を例として
 35 布施 太郎 ダム建設における山村の変貌:神奈川県愛甲郡清川村を事例に
 37 中山伊知郎 長野県の冬期における南風の特徴について
 40 中島 亮 衛星データを用いた石垣島轟川流域における赤土流出域の検出
 42 小野 敦 諏訪湖の結氷記録からみた冬の気温変動
 45 合間 慎 東京都台東区におけるおこし製造業について:味の変化と伝播を中心に
 47 麻生 直人 九十九里沿岸地域における観光開発:千葉県白子町を例として
 48 山縣安紀子 茨城県日立市北部における岩石海岸の地形変化
 50 中村 慎 伊豆半島における観光地の地域的展開
 51 奥谷 剛治 新潟県三条市の地場産業の衰退に伴う地域産業の形成
 52 堀口 智一 長野県茅野市における寒天生産から見た気象との関係について
 53 籠宮 淳郎 区域別にみる下水処理施設の実態とそれに伴う河川水質の変動:埼玉県飯能市の事例
 56 鈴木 麻子 メディアにおける海外特集記事の変遷について:女性誌に描かれた海外像
 57 深代 雅明 群馬県片品川中流域における河岸段丘形成:段丘形成過程と古湖水面変化の関係
 58 小野 守 農業振興における組織機能の役割:山形県西村山郡大江町の場合
 59 小堀 貴亮 伝統的町並み保全の現代的意味と方法に関する一考察:川越・旧城下町のケーススタディ
 61 井元 成治 兵庫県南部地震に伴うパッドランドの地形変化:芦屋ロックガーデンと市街地駐車場からの考察
 62 萩原 勇 高崎市の幹線道路、環状線の整備による都市の変容と効果:ロードサイドショップでの例
 64 関口 貴則 小名浜における海霧の発生要因と海水について
 65 福山 達也 横浜市における緑の保全対策の展開と新たな動向
 66 前田 暢 鳥取県西部地域における希少生物保護とリゾート開発について
 67 伊藤 宏峰 大規模小売店舗の動向からみた伊那市の商業構造
 80 加藤 慎一 神奈川県厚木市鳶尾団地の気温分布について
 81 斉藤 寛之 千葉県の通勤・通学圏とその構造

<97年度卒業論文>

- 01 小平佳奈子 長野県東部佐久盆地における地形発達史:ボーリングデータとメッシュマップを利用した古地理の復元
 03 寺本和哉 河北潟および内灘砂丘周辺の海岸地形の変遷
 04 稲見悟志 亜高山帯の人工草地における凍結・融解作用で形成された小起伏地形:栃木県足尾山地を例に
 07 酒井陽介 京王線府中駅付近における空間利用の変化:駐車場空間の変容を中心として
 08 中島恵理子 訪日外国人観光客の観光行動について
 09 金井 宏 東京都日野市における鉄道利用について
 10 伊藤智彦 東京都八王子市における人口激増要因と土地利用パターン
 11 後藤和美 東京都23区における高齢者福祉施設の分布と在宅サービスの地域格差について
 12 福田晶子 都市中心部における中高層集合住宅の立地過程と特性:埼玉県川口市を対象として
 13 手塚浩幸 茨城県旭村における刈り栽培と海洋性との関連について
 14 中島加奈子
 15 石松征一郎 千葉県船橋市における鉄道路線及び各駅の特徴とその分類
 14 中島加奈子 神奈川県相模原市の産業構造における先端技術産業の役割
 16 征矢 尚 都市農地を残すための一つの手段としての市民農園:東京都練馬区の3種類の農園を事例として
 18 菊池信宏 環境保全型農業の取り組みについての考察:群馬年新田郡新田町を事例として
 19 早川義隆 池上本門寺における‘クールアイランド’現象について
 22 倉澤晴信 横浜市都筑区川和町における気温分布について
 23 石橋 淳 奥日光白根山周辺における立ち枯れ現象について
 24 中川奈津江 付着藻類を使った都市河川の水質指標について:横浜市を例とした多変量解析による研究
 25 塩沢隆幸 密生した街路樹におけるクールアイランド現象について:杉並区阿佐ヶ谷・高円寺を例として
 26 田中俊行 前橋市中心市街地における駐車場の変容
 27 水落健一郎 都市近郊地域における梨農園の経営動向:千葉県北西部を事例として
 29 志村鋼治 三浦半島南部における海浜植物の成帯構造と地形

- 33 大塚 茂 生産緑地法改正後の都市農業の変化:東京都昭島市を事例として
- 36 小船勝巳 群馬県吾妻川地域における地滑り地形の分布と特徴について
- 39 水田博史 濃尾平野西部・養老町の地下水流動
- 41 高野 裕 福島県福島盆地における風の特徴について
- 42 関根健太郎 自然観光地域における環境保全
- 44 下川直樹 諫早湾の干拓環境の変化について
- 45 横山美和子 埼玉県秩父山地大霧山斜面における夜間気温の特性とその発生頻度について1865年~1875年までの横浜のイメージ:横浜絵を利用して
- 48 土屋真紀 中華人民共和国・三江平原における多時期LANDSAT/MSSデータによる土地被覆変化の抽出
- 50 磯部博宣 関東各都県からみた「埼玉県のイメージ」とその地域的背景
- 52 五十嵐繁樹 関東山地北部荒船山における岩塊流について
- 54 涌井重信 中山道本庄宿及びその周辺の復元と発展の要因
- 55 増田尚徳 慣行パソレットから見る静岡県の地域的イメージ
- 56 佐々木善教 都市近郊酪農における糞尿処理について:千葉県八千代市・船橋市を事例として
- 57 奥原琢弥 丹沢山地東部における竹林の退行現象:空中写真画像解析と分光放射測定を例に
- 59 渡辺竜平 浦和市の河川事業の変化からみた地域の特性
- 62 手塚 心 生産流通過程、特に生産過程の変化を中心に
- 64 徳永 匡 首都圏の交通について
- 65 後藤岳人 新食糧法施行後におけるJA・農家の対策:新潟県新津市を事例として(9月卒業)
- 66 吉田直樹 静岡市中心部における都心機能の分布
- 67 仲村 暖 海洋が陸地上の気温に与える影響について:観測地点の海岸線までの距離を研究要素として
- 69 埴 英吾 千葉県銚子市における霧日数の永年変化とその要因について
- 72 佐々木徹 インターネットを利用した農産物の産直について
- 73 井上智子 新宿における地域構造の変化について
- 75 中村 悟 神奈川県横浜市青葉区寺家町におけるふるさと村の考察
- 77 及川美保 八王子市における都市計画と発達過程
- 87 北野まみ 市民による公園の管理運営について:神奈川県横浜市の舞岡公園を対象として
- 88 長竹直樹 山梨県雨畑川・桃胡草里沢における土石流扇状地の発達過程
- 89 神谷玲央 防火的観点から見た地滑り地の危険度の判定:群馬県神流川流域を例に
- 90 星野勝之 砂防ダムが及ぼす河床の堆積状況の変化について:高麗川上流を例に
- 91 猪平大典 秋葉原における禁煙の店舗種類の変化
- 92 鄭 好庭 市民農園の利用とその役割:東京都世田谷区の場合
- 93 鈴木亜衣子 日本の干潟問題:開発か保全かをめぐる動き:東京湾・三番瀬を事例として
- 94 長谷川智美 同潤会アパートにおける居住者の特性と居住移動について:青山アパートを例に
- 95 石鍋泰司 ワサビ栽培と気象との関係について:静岡県伊豆半島天城湯ヶ島町を中心として
- 96 稲葉 剛 福島県磐梯山エリアスキー場開発と周辺地域への影響:会津フレッシュリゾート構想を背景に
- 97 田部貴志 バス路線網のネットワーク分析
- 99 清水川令 ハヶ岳連峰縞枯山における南西卓越風と縞枯れ現象との関係
- 700山崎 充 首都圏Jミ処分場立地における必要性和問題点:東京都西多摩郡日の出町を事例として
- 701伊集院照華 東京湾海上公園における水辺利用に関する研究:臨海副都心部を事例として
- 702望月 徹 神奈川県横浜市左近山団地における気温分布
- 703近藤智子 霞ヶ浦の水質変化が周辺地域に与える影響について
- 704浅野久美 宮城県宮戸島における海苔養殖について
- 707谷川雅洋 小田急線相模大野駅周辺部における空間利用状況とその変化
- 708大石秀行 埼玉県秩父山地大霧山斜面における夜間気温の特性とその発生頻度について
- 709寺田昌浩 九州地方における夏季日最高気温の永年変化について
- 711下地秀樹 沖縄におけるサトウキビ 収量と気象との関係について:宮古島(島尻マージ)を中心として
- 720瀧澤賢治 地名の定着と地名からみた地域的帰属意識について:新市名・鹿角市を中心に(9月卒業)
- 724浅沼英二 廃坑の再利用について

- 717吉田郁夫 東京23区における自動車交通事故の発生に関する地理学的考察
 719天谷尚以 栃木県日光市における観光地の現状と問題点

<98年度卒業論文>

- 1 佐竹 大介 神奈川県における湘南地域の観光戦略:藤沢市・大磯町の観光状況に基づいて
- 2 川嶋 洋志 東京都世田谷区の機能別にみた緑地分布
- 3 石井 康 千葉県印旛郡富里町における西瓜栽培
- 4 日沼奈々子 秋田県内におけるハタハタ食形態の差異について
- 5 岩渕 昌也 千葉県木更津市金田地区住民の生活面に関する意識調査について:東京湾アクアライン開通を境に
- 6 山崎 勇治 小田急線新百合ヶ丘駅周辺地区における地区開発の発展とその課題
- 7 深澤 崇 神奈川県と静岡県の建物の地震被害と自治体の対策:神奈川県西部地震と東海地震を例に
- 9 古川 淳治 岩手県における降雪量の日本海側からの影響
- 10 川本麻衣子 高層住宅の立地にともなう都市周辺部の変化について
- 11 阿部 文武 相模鉄道いずみ野線沿線の発展過程
- 12 田上 雅伸 川崎市多摩区における宅地開発の展開
- 13 佐藤 愛 セイタカアワダチソウの繁茂と水質汚染の関係:手賀沼集水域を例に
- 14 小笠原洋介 東京都田無市と保谷市の合併問題について
- 15 山本 芳裕 ウォーターフロント東京都港区台場におけるレジャー空間と居住空間の融合について
- 16 若井里江子 手描き地図による日本の大きさとかたち
- 18 下田 大介 大宮駅西口商店街の開発と地域への影響
- 21 松村 光彦 都心部における高齢者の居住特性:神田神保町1丁目を事例に
- 24 杉山 崇 静岡県藁科川の木枯の森における植生
- 26 金子 滋幸 ランドサットデータによる中国内[?]ル自治区奈曼(ケマ)周辺の砂漠化程度の評価
- 28 坂本 繭子 千葉県における大気汚染の諸特性
- 29 沼尻美恵子 マレーシア・サラワク州の熱帯林減少の原因:焼畑と商業的伐採、二つの説を巡る検討
- 30 富田 裕美 千葉県における8月の海陸風について
- 33 吉田 正光 三宅島北東斜面における噴火後の植物の侵入
- 35 梅澤 朗 多摩ニュータウン地域住民の居住環境の変化について
- 36 秋本 直樹 千葉都市モノレールの利用状況と周辺地域への効果
- 43 荒川 隆志 宮崎市におけるリゾート開発「シーガイア」について
- 46 庄田 哲夫 千葉ニュータウンの都市開発:印西市千葉ニュータウン中央地区・印西牧の原を事例に
- 49 石賀 俊哉 住工一致の零細工業における存立意義と衰退要因?東京都墨田区京島地区の金属加工業を事例に?
- 52 櫻井 周郎 ロードサイド型店舗の立地特性について:相模原市・国道16号線と町田市・町田街道を事例に?
- 55 佐久間晋也 茨城県における夏季の風向と日最高気温の関係について:1993年冷夏年、1994年暑夏年を対象として
- 57 筒井 直人 東京湾アクアラインの効果と課題
- 58 鋤持 周平 鉄道競合区間における駅勢圏について:東京都品川区大井周辺を事例に
- 59 鶴田 倫子 支流の流域特性からみた山地河川の粒径変化とその要因?長野県北部・裾花川と土尻川を例に?
- 64 深沢 英史 新潟都市圏における交通流と周辺地域の変化
- 66 大輪 浩幸 浅草花やしきの人文主義的解釈?昭和30年代の浅草との関係?
- 70 百田 知永 多摩ニュータウンにおける住宅供給形態と高齢化比率の関係に関する研究:諏訪・永山地区を事例に
- 75 星野 知大 スギ人工林の施業方法の違いが林床植生と土壌に与える影響について
- 76 穂坂 雅人 都営12号線開通に伴う駅勢圏の変化
- 79 鍋田 匡之 東急多摩田園都市における宅地開発と商業施設立地
- 80 鮫島 政規 神奈川県における民間研究所の立地状況について
- 84 河崎 昭良 東京大都市圏周辺都市、町田市の中心商業地の変化
- 85 木村 賢人 「自然観」の地域差と個人差について
- 87 坂田 康浩 過疎地域における地域情報化事業への取り組みとその課題:富山県婦負郡山田村を事例に
- 88 三品 雅孝 高齢者人口の地域的分布と福祉施設の立地状況等からの高齢化社会の考察
- 89 大曾根宏昭 増加する農業法人の経営展開について:千葉県の農業法人を事例に

- 90 高橋 浩二 河川における沈水植物の分布と水質汚濁:相模川支流4河川を事例として
- 91 三浦 俊亮 新潟県における錦養殖の現状:小千谷市・山古志村を事例に
- 96 岡田 修一 JR南浦和駅と武蔵浦和駅周辺の地価変動と土地利用変化
- 97 橋本 泰子 神奈川県央地域における大気汚染について
- 98 鈴木 大典 多摩ニュータウン居住者の加齢化に伴う地域への影響
- 101 小棚木いずみ 都市における子供の遊び場
- 102 菅野 大輔 横浜市港北区新横浜地区における横浜第二都心化計画による街づくりの現状と課題
- 103 原島 賢 八王子駅周辺における駐車場施設の分布と現状:横浜駅周辺との比較において
- 104 堀川 貴満 長野市における冬季オリンピックによる道路整備とその効果
- 105 甲谷 茜 関東地方における夏の高温について
- 106 嶋本 竜士 三重県の耕作放棄地の拡大と対策
- 107 笠原 秀恭 大規模小売店舗の立地動向とそれによる商店街への影響
- 108 市川 敦史 神奈川県山北町三保ダムおよび丹沢湖周辺の観光・レクリエーション開発
- 112 大島 良紀 伊豆半島・房総半島から、伊豆・小笠原諸島にかけての気候環境の変化について
- 113 赤坂 仁一 東京都新宿区牛込地域における都市型地域組織について
- 114 吉岡 優子 大阪と東京における住民の郷土意識について:東西の対抗意識を中心に
- 115 酒井 規充 都市河川における河川敷の土地利用形態:荒川河川敷ゴルフ場を例に
- 116 植木 健文 新潟市における都市化の影響:坂井輪地区を中心として



<付録2>

地理学教室研究用備品リスト

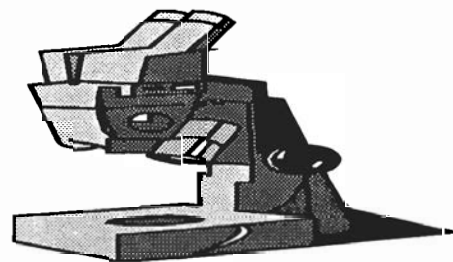
このリストは、学生が利用すると思われる備品を中心に掲載しました。この他の備品や本リスト掲載備品の型番・内容などの詳細は、地理学研究室にある備品リストを参照してください。学生は教室所有の全ての備品を、目的がはっきりしていれば利用することができます。しかし、使用場所が制限されたり、講習を受けなければ利用できないもの、現在長期貸出中のものがあるので、事前に教員に確認して下さい。

(地形・地質・土壌)	個数
クリノメーター	100
高度計	7
ハンドレベル (角型茶ケース入)	39
距離計	2
デジタルノギス (三豊)	4
デジタルノギス用ミニプロセッサ	4
ハンマー、スコップなど	多数
偏光顕微鏡	5
岩石標本 セット	5
岩石薄片標本 (H5) セット	1
鉱物標本 (H6、7) セット	2
植物標本 (H7) セット	1
條痕板標本 (H8) セット	1
動物標本 (H9) セット	1
鉱物硬度計標本 (H10) セット	1
双眼実体顕微鏡	1
音響測深機	1
アース (ハンド) オーガー (検土工)	5
大型ハンドオーガー (5m)	1
土壌サンプラー	5
恒温乾燥機	1
電子天秤	1
天秤ばかり	1
マンセルカラーチャート	10
ふるい (ステンレス製など)	3
土壌ふるい機	1
ふるい用電動ブラシ	1
土壌透水試験器	12
土壌硬度計	6
エメリー管 (粒度分析用)	1
ゲイルサック型ピクノメーター (小、大)	2
アンドリアゼンピペット	1
土壌成分検定器	1
シュミットハンマー	1
岩石用電気ドリル	1
(水文・水質)	個数
ドラム式自記水位計	1

広井電気式流速計	1
塩分濃度測定キット	1
塩分濃度測定キット	1
電気伝導度計	7
Ph メーター	6
水質チェッカー	1
水質・環境測定器 (ハック社製)	1
ポータブルPH計	1
ポータブル伝導度計	1
同上プリンタユニット	1
ポータブル溶存酸素計	1
(気候)	個数
ひまわり受信システム	1
ノア受信システム	1
気象ファックス	1
<温・湿度>	
白金抵抗デジタル温度計、プリンタユニット (2)	10
自記温湿計	4
アスマン通風乾湿計	37
デジタル温度計用プローブ (各種)	12
デジタル温度計用プローブ (延長コード)	4
気温観測用データロガー・ストックカー式	4
自記地温計	3
曲管地温計 (30, 20, 10cm セット)	5
最高温度計 (ルサフォード型)	5
赤外線放射温度計	2
最低温度計 (ルサフォード型)	5
最高最低温度計	1
棒状温度計	13
<日射・日照・熱流>	
エコー日射計 (EKO)	2
シリカセル日射計 (石川)	1
電圧計 (石川日射計用)	1
正味放射計 (エアポンプ・シャントボックス付、)	1
積算記録計 (EKO)、30チャンネル	1

積算記録計 (EKO) 、3チャンネル	1
ロピッチ日射計	2
熱流計 (EKO)	2
＜風向・風速＞	
中浅式風向風速計	7
牧野マイクロアネモ	2
＜雨＞	
雨量計	2
自記雨量計	2
長期隔測自記雨量計	1
(情報処理)	個数
大型電子計算機用端末	1
SUNワークステーション (含X端末)	3
パソコン式(PC98,DOS/V,Mac など)	多数
関連する付属品として、PRT、HD、MO、デジタイザー、XYプロッタ、スキャナーなど	多数
ソフト (OS、ワープロ、データベース、地図、リモートセンシング、OCR、統計)	多種
(リモートセンシング・地理情報)	個数
OM-SAT (パソコン用)	3
μ-CREST (パソコン用)	1
CRESCENT (ワークステーション用)	1
EXPIAS //	1
ARC/INFO , ARC/VIEW //	1
GEO-STRAR PC用GISソフト	55
数値地図用ソフトウェア、数値地図データ	多種
リモートセンシングデータ (FD、MT)	多数
大型プロッタプリンタ	1
(地図学)	個数
回転地図掛け	2
立体地球儀 ・天球儀	3
反射式双眼実体鏡	11
視差測定竿	8
簡易実体鏡 (黒ケース入)	11
	2
プランニメーター (アナログ方式)	15

デジタル式プランニメーター (牛方)	6
キルビメーター (片面、両面)	55
製図用具セット	3
レタリング・ロットリングセット	43
超音波洗浄器 (筒井理化学)	1
製図用コンパス、テンプレート、各種定規など	多数
(測量)	個数
オートレベル	6
光波測距儀 (含 関連付属品)	1
トランシット	9
レベル	4
プリズム式アリダート	4
アリダート・平板測量一式	10
巻尺、箱尺、メジャー、ポールなど	多数
トランシーバー	3
GPSレシーバー	2
ポケットコンパス	2
(視聴覚・暗室)	個数
スライドプロジェクター	8
オーバーヘッドプロジェクター	3
コピースタンド	1
カメラ (一眼レフ)	2
接写レンズ SP90mm F2.5	1
セコニック照度計	1
引伸機など暗室用品セット	1
双眼鏡	1
マイクロカセットレコーダ	1
生物顕微鏡	1
水中カメラ (ニコンス+17mmレンズ)	1
テレビモニター、VTR編集装置	1
フォトビデオ (画像入力装置)	1
VHS ビデオデッキ	3
8mm ビデオカメラ+防滴ハウジング	1
DVカメラ	1
DVカメラ用水中ハウジング	1
TVモニター、VHSデッキ等のセット	1



Department of Geography Kokushikan University



地理学教室のしおり

1999年 改訂第7版

国土館大学文学部地理学教室 編集・発行

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1

<http://kaede-geo.kokushikan.ac.jp>

「地理学教室のしおり」訂正箇所

編集担当者間で文書のやり取りをしている間に、字化け・線の欠落・空白・不適切な行替えなどが生じてしまいました。以下に、主な訂正箇所を示します。

(訂正箇所)	(誤)	(正)
もくじ、下から20行目	はたせぬ夢	大学とは
P. 5 下から7行目	都市周辺地域の	都市周辺地域の
P. 7 左上から3行目	い来ません。	いきません。
p. 8 表および<卒業単位>	7ヶ所ライン欠落、行替え	下記の通り

地理学専攻の専門科目 学年別配当表 (1998年度入学生以降に適用)

	(人文地理)	(自然地理)	(関連領域)	(地誌)	(情報解析)	(実習・演習・卒論)
1年	人文地理概説	自然地理概説	国史概説 東洋史概説 考古学*	日本地誌 首都圏地誌	地図学 地理調査法	地理実習Ⅰ②
2年		地形学	西洋史概説	外国地誌(7ヶ所)	空中写真判読② 地理データ分析入門②	地理実習Ⅱ②
3年	歴史地理学 経済地理学 都市地理学	気候学 生物地理学 第四紀学	民俗学研究 資源管理論 文化史概説* 歴史民俗学*	外国地誌(ヨーロッパ) 外国地誌(7ヶ所) 外国地誌(発展途上地域)	統計情報学 文献研究 計量地理学 測量学 地図製作法 リモートセンシング	地理実習Ⅲ② 地理学演習Ⅰ②
4年			文化人類学研究 地域計画論 環境7ヶ所	外国地誌(環太平洋地域)	地理情報システム	測量学実習② 地理学演習Ⅱ② 卒業論文⑧

<卒業単位>

卒業に必要な単位数は124単位で、その内訳は次の通りです。
総合教育・保体・外国語(28単位) + 専門教育(88単位) + 自由選択(8単位) = {総合教育(18単位) + 保体(2単位) + 外国語(8単位)} + {専門必修(34単位) + 専門選択必修(16単位) + 専門選択(38単位)} + 自由選択(8単位)

<訂正つづき>

P. 11 上から5行目	(誤) 静岡県修善寺町：各種社会調査(内田)
	(正) 長野県小諸市：歴史景観調査と社会調査
P. 12 上から7行目	(誤) 盛岡市：都市の立体的機能分布・観光イメージ(内田)
	(正) 盛岡市：各自がテーマを決め調査

(訂正箇所)	(誤)	(正)
P. 13 下から1行目	1-13, 1998.	55-67, 1998
P. 14 右 上から15行目	センターだ注意して	せん。ただ注意して
P. 16 右 上から3行目	おもに何を研究しているか?	<おもに何を研究しているか?>
P. 18 右 下から10行目	所属しテーマした。	所属してました。
	右 下から2行目	勉強しテーマした。
P. 19 左 上から2行目	読んだりしテーマした。	読んだりしてました。
	左 下から14行目	上術の農工大
	左 下から5行目	になっているので、

(訂正箇所)	(誤)	(正)
P. 20 左 下から4行目	分が感心をもった	分が関心をもった
P. 36 上から11行目	(誤) 横山美和子「埼玉県外秩父...」について	(正) 横山美和子「幕末から明治初期にかけての横浜のイメージの変化——横浜浮世絵をテーマにして」
P. 36 下から14行目	河川水利の役割	河川水運の役割
P. 38 下から1行目	ブナ林の構造と動態	ブナ林の構造と動態
P. 39 右上から14行目	ソフトベレーティング	ソフトオペレーティング

P. 51~54 以下のものと入れ替える。

33 本田 慎吾	東京西部における鉄道駅空間とその類型化：西武池袋線沿線を例として
35 布施 太郎	ダム建設における山村の変貌：神奈川県愛甲郡清川村を事例に
37 中山伊知郎	長野県の冬期における南風の特徴について
40 中島 亮	衛星データを用いた石垣島農川流域における赤土流出域の検出
42 小野 敦	諏訪湖の結氷記録からみた冬の気温変動
45 合間 慎	東京都台東区におけるおこし製造業について：味の変化と伝播を中心に
47 麻生 直人	九十九里沿岸地域における観光開発：千葉県白子町を例として
48 山藤安紀子	茨城県日立市北部における岩石海岸の地形変化
50 中村 慎	伊豆半島における観光地の地域的展開
51 奥谷 剛治	新潟県三条市の地場産業の衰退に伴う地域産業の形成
52 堀口 智一	長野県茅野市における寒天生産から見た気象との関係について
53 籠宮 淳郎	区域別にみる下水処理施設の突進とそれに伴う河川水質の変動：埼玉県飯能市の事例
56 鈴木 雅子	デパートにおける海外特設記事の変遷について：女性誌に描かれた海外像
57 深代 雅明	群馬県片品川中流域における河岸段丘形成：段丘形成過程と古湖水面変化の関係
58 小野 守	農業振興における組織機能の役割：山形県西村山郡大江町の場合
59 小堀 貴亮	伝統的町並み保全の現代的意味と方法に関する一考察：川越・旧城下町のケーススタディ
61 井元 成治	兵庫県南部地震に伴うパトリックの地形変化：芦屋町がケースの例
62 萩原 勇	高崎市の幹線道路、環状線の整備による都市の変容と効果：ロードサイドゾーンの事例
64 関口 貴則	小名浜における海霧の発生要因と海水について
65 福田 達也	横浜市における緑の保全対策の展開と新たな動向
66 前田 暢	鳥取県西部地域における希少生物保護とリゾート開発について
67 伊藤 宏峰	大塚小売店舗の動向からみた伊那市の商業構造
80 加藤 慎一	神奈川県厚木市麓尾団地の気温分布について
81 斎藤 寛之	千葉県内の通勤・通学圏とその構造

<97年度卒業論文>

1 小平 佳奈子	長野県東部佐久盆地における地形発達史—ボーリングデータとメッシュマップを利用した古地理の復原—
3 寺本 和哉	河北潟および内灘砂丘周辺の海岸地形の変遷
4 福見 悟志	重高山帯の人工草地における凍結・融解作用で形成された小起伏地形—栃木県足尾山地を例に—
7 酒井 陽介	大規模小売店舗進出による既存商店街への影響について—東京都府中市の事例
8 中島 恵理子	訪日外国人による日本の観光地評価と観光行動について
9 金井 宏	鉄道競合路線区間における駅勢力圏について—東京都日野市を例に—
10 伊藤 智彦	東京都八王子市における人口激増要因と土地利用パターン
11 後藤 和美	東京都23区における高齢者福祉施設の分布と在宅サービスの地域差について
12 福田 晶子	都市中心部における中高層集合住宅の立地過程と特性—埼玉県川口市を対象として—
13 手塚 浩章	城島旭村におけるメロン栽培と海洋気候との関係について
14 中島 加奈子	神奈川県相模原市における先端技術産業の役割—NEC相模原事業場を中心として—
15 石松 征一郎	千葉県船橋市における鉄道路線及び各駅の特徴とその分類
16 征矢 尚	都市農地を残すための一つの手段としての市民農園—東京都練馬区の3種類の農園を事例として
18 菊池 信宏	環境保全型農業の取り組みについての考察—群馬県新田郡新田町を事例として
19 早川 鶴隆	池上本門寺におけるクールアイランド現象について
22 倉澤 晴信	横浜市都筑区川和町における気温分布について
23 石橋 淳	奥日光白根山周辺における立ち枯れ現象について
24 中川 奈津江	付着藻類種をつかった都市河川の水質指標について—横浜市を例とした多変量解析による研究—
25 塩沢 隆幸	密生した街路樹におけるクールアイランド現象について—杉並区阿佐ヶ谷・高円寺を例として—
26 田中 俊行	前橋市中心市街地における駐車場の変容
27 水落 健一郎	都市近郊地域における梨園の経営動向—千葉県北西部を事例として—
29 志村 鋼治	三浦半島南部における海浜植物の成帯構造と地形
33 大塚 茂	生産地法改正後の都市農業の変化—東京都昭島市を事例として—
36 小船 勝巳	群馬県吾妻川流域における地すべり地形の分布と特徴について
39 水田 博史	遷尾平野西部・養老町の地下水流動
41 高野 裕	福島県福島盆地における風の特徴について

42 関根 健太郎 自然観光地域における環境保全
 44 下川 直樹 鯨早湾の干潟環境の変化について
 45 横山 美和子 幕末から明治初期にかけての横浜のイメージの変化—横浜浮世絵をテキストにして—
 48 土屋 真紀 中華人民共和国・三江平原における多時期LANDSAT/MSSデータによる土地被覆変化の抽出
 50 磯部 博宣 関東各都県のイメージ評価パターンとその構造について
 52 五十嵐繁樹 関東山地北部荒船山における岩塊流について
 54 涌井 重信 山中道本庄宿の構造と繁栄の要因—近世後期を中心として—
 55 増田 尚徳 静岡県の地域イメージについて—観光パンフレットを用いた分析から—
 56 佐々木 啓敏 都市近郊圏域における資源処理について—千葉県八千代市・船橋市を事例として—
 57 奥原 琢弥 丹沢山地東部における「ササ林」の退行現象—空中写真画像解析と分光放射測定を例に—
 59 渡邊 竜平 浦和市の河川事業の変化から見た地域の特性
 62 手塚 心一 埼玉県草加市における米菓（煎餅）業—生産流通過程を中心に—
 64 徳永 匡 東京都港区・足立区における町名変更および住居表示変更について
 66 後藤岳人 新倉施法施行後におけるJA・農家の対策—新潟県新潟市を事例として（9月卒業）
 68 吉田 直樹 静岡市中心部における都市機能の分布
 67 仲村 暖 海洋が陸上の気温に与える影響について—観測地点の海岸線までの距離を研究要素として—
 69 塚 英吾 千葉県銚子市における霧日数の永年変化とその要因について
 72 佐々木 徹 インターネットを利用した農産物の産直について
 73 井上 智子 国勢調査町丁別統計データからみた新宿区の居住地域構造の変化について—1965～1995年まで—
 75 中村 悟 神奈川県横浜市新倉区寺家町におけるふるさと村の考察
 77 及川 美保 八王子市の都市整備と住民意識
 87 北野 まみ 市民による公園の管理運営について—神奈川県横浜市の鶴岡公園を対象として—
 88 長竹 直樹 山梨県南河川・桃湖草里沢における土石流懸状地の発達過程
 89 神谷 玲央 防火的観点から見た地すべり地の危険度の判定—群馬県神流川流域を例に—
 90 星野 勝之 砂防ダムが及ぼす河床の堆積状況の変化について—高麗川上流を例に—
 91 猪平 大典 秋葉原における近年の店舗種類の变化
 92 野 好庭 市民農園の利用とその役割—東京都世田谷区の場合—
 93 鈴木 亜衣子 日本の干潟問題—開発か保全かをめぐる動き—東京湾・三浦湾を事例として
 94 長谷川 智美 同業会アパートにおける居住者の特性と居住移動について—青山アパートを例に—
 95 石橋 泰司 ワサビ栽培と気象との関係について—静岡県伊豆半島天城湯ヶ島町を中心として—
 96 稲葉 剛 福島県磐梯山エリアスキー場開発と周辺地域への影響—会津構想を背景に—
 97 田部 寅志 都市内バス輸送網のネットワーク分析—福岡市を例として—
 99 滑水川 令 八ヶ岳連邦結核山における南西卓越風と結核現象との関係
 700 山崎 充 首都圏ゴミ処分場立地における必要性和問題点—東京都西多摩郡日の出町を例として—
 701 伊藤院照彦 東京湾海上公園における水辺利用に関する研究—臨海副都心部を事例として—
 702 望月 徹 神奈川県横浜市新山岡地における気温分布
 703 近藤 智子 霞ヶ浦の水質変化が周辺地域に与える影響について
 704 浅野 久美 宮城県宮戸島における海苔養殖について
 707 谷川 雅洋 小田急線相模大野駅周辺部における空間利用状況とその変化
 708 大石 秀行 埼玉県外秩父山地大霧山斜面における夜間気温の特性とその発生頻度について
 709 寺田 昌浩 九州地方における夏季日最高気温の永年変化について
 711 下地 秀樹 沖縄県におけるサトウキビ収量と気象との関係について—宮古島（島尻マージ）を中心として—
 717 吉田 郁夫 東京23区における自動車交通事故の発生についての地理学的考察
 719 天谷 尚以 栃木県日光市における観光客現象の要因
 724 浅沼 英治 観光を目的とした廃坑の再利用

<98年度卒業論文>

1 佐竹 大介 神奈川県における湘南地域の観光戦略：藤沢市・大磯町の観光状況に基づいて
 2 川嶋 洋志 東京都世田谷区の機能別にみた緑地分布
 3 石井 徹 千葉県印旛郡富里町における西瓜栽培
 4 日沼奈々子 秋田県内におけるゆず食形態の差異について
 5 岩淵 昌也 千葉県木更津市金田地区住民の生活面に関する意識調査について：東京湾77km開通を境に
 6 山崎 勇治 小田急線新百合ヶ丘駅周辺地区における地区開発の発展とその課題
 7 深澤 崇 神奈川県と静岡県との建物の地震被害と自治体の対策：神奈川県西部地震と東海地震を例に
 9 古川 淳治 岩手県における降雪量の日本海側からの影響
 10 川本麻衣子 高層住宅の立地にもなう都市周辺部の変化について
 11 阿部 文武 相模鉄道いずみ野線沿線の発展過程
 12 田上 雅伸 川崎市多摩区における宅地開発の展開
 13 佐藤 愛 水質汚濁と水質汚染の関係：手賀沼集水域を例に
 14 小笠原洋介 東京都田無市と保谷市の合併問題について
 15 山本 芳裕 97-98年東京湾都港区台地におけるゾナ空間と居住空間の融合について
 16 若井里江子 手描き地図による日本の大きさとかたち
 18 下田 大介 大宮駅西口商店街の開発と地域への影響

21 松村 光彦 都心部における高齢者の居住特性：神田神保町1丁目を事例に
 24 杉山 崇 静岡県葛川川の本枯の森における植生
 26 金子 滋幸 中国内モンゴル自治区奈曼（ナマン）周辺の砂漠化程度の評価
 28 坂本 嗣子 千葉県における大気汚染の諸特性
 29 沼尻美恵子 マレーシア7州の熱帯林減少の原因：焼畑と商業的伐採、二つの説を巡る検討
 30 富田 裕美 千葉県における8月の海陸風について
 33 吉田 正光 三宅島北東斜面における噴火後の植物の侵入
 35 梅澤 朗 多摩ニュータウン地域住民の居住環境の変化について
 36 秋本 直樹 千葉県市川市の利用状況と周辺地域への効果
 43 荒川 隆志 宮崎市におけるリゾート開発「シガ7」について
 46 庄田 哲夫 千葉ニュータウンの都市開発：印西市千葉ニュータウン中央地区・印西牧の原を事例に
 49 石賀 俊哉 住工一般の零細工業における存立意識と衰退要因：東京都墨田区京島地区の金属加工業を事例に
 52 櫻井 郎郎 ロードサイド型店舗の立地特性について：相模原市・国道16号線と町田市・町田街道を事例に
 55 佐久間晋也 茨城県における夏季の風向と日最高気温の関係について：1993年冷夏年、1994年春夏年を対象として
 57 筒井 真人 東京湾77kmの効果と課題
 58 御持 周平 鉄道複合区間における駅構内について：東京都品川区大井周辺を事例に
 59 鶴田 倫子 支流の流域特性からみた山地河川の粒径変化とその要因：長野県北部・裾花川と土尻川を例に
 64 深沢 英史 新潟都市圏における交通流と周辺地域の変化
 66 大輪 浩幸 浅草花やしきの人文主義的解釈：昭和30年代の浅草との関係
 70 百田 知永 多摩ニュータウンにおける住宅供給形態と高齢化比率の関係に関する研究：原訪・永山地区を事例に
 75 星野 知大 人工林の施業方法の違いが林床植生と土壌に与える影響について
 76 穂坂 雅人 都営12号線開通に伴う駅構内の変化
 79 鶴田 匡之 東京都多摩区都市における宅地開発と商業施設立地
 80 鼓島 政規 神奈川県における民間研究所の立地状況について
 84 河崎 昭良 東京都市圏周辺都市、町田市の中心商業地の変化
 85 木村 賢人 「自然観」の地域差と個人差について
 87 坂田 康浩 過疎地域における地域情報化事業への取り組みとその課題：富山県湯浅郡山田村を事例に
 88 三品 雅孝 高齢者人口の地域的分布と福祉施設の立地状況等からの高齢化社会の考察
 89 大曾根宏昭 増加する農業法人の経営展開について：千葉県の農業法人を事例に
 90 高橋 浩二 河川における沈水植物の分布と水質汚濁：相模川支流4河川を事例として
 91 三浦 俊亮 新潟県における錦鯉養殖の現状：小千谷市・山古志村を事例に
 96 岡田 修一 JR南浦和駅と武蔵浦和駅周辺の地価変動と土地利用変化
 97 橋本 泰子 神奈川県中央地域における大気汚染について
 98 鈴木 大典 多摩ニュータウン居住者の高齢化に伴う地域への影響
 101 小棚木いづみ 都市における子供の遊び場
 102 菅野 大輔 横浜市港北区新横浜地区における横浜第二都心化計画による街づくりの現状と課題
 103 原島 賢 八王子駅周辺における駐車場施設の分布と現状：横浜駅周辺との比較において
 104 堀川 貴満 長野市における冬季利用による道路整備とその効果
 105 甲谷 茜 関東地方における夏の高温について
 106 嶋本 竜士 三重県の耕作放棄地の拡大と対策
 107 笠原 秀森 大規模小売店舗の立地動向とそれによる商店街への影響
 112 大島 良紀 伊豆半島・房総半島から、伊豆・小笠原諸島にかけての気候環境の変化について
 113 赤坂 仁一 東京都新宿区牛込地域における都市型地域組織について
 114 吉岡 優子 大阪と東京における住民の郷土意識について：東西の対抗意識を中心に
 115 酒井 規充 都市河川における河川敷の土地利用形態：荒川河川敷3ヶ所を例に
 116 植木 健文 新潟市における都市化の影響：坂井輪地区を中心として